

挑戦が、こどもたちの未来を拓く

「キミチャレ2012」～キミも今日からチャレンジャー～報告書



断られて泣き
そうになった。



ドキドキしな
がら電話した。



大変だったけど、
忘れられない
夏になった。



全部自分で考えて、
自分で動いた。



親切な大人に
いっぱい出会った。



瀬戸市教育委員会
瀬戸キャリア教育推進協議会

挑戦が、こどもたちの未来を拓く

「キミチャレ2012」～キミも今日からチャレンジャー～報告書

目次 contents

・「キミチャレ 2012」事業のねらい	2
・「キミチャレ 2012」事業のながれ	3
・「キミチャレ 2012」運営体制～サポーターが支える～	4
・説明会～自分で作戦を立てることからはじまる～	5
・サポーターによるキミチャレ活動レポート 1	6
・中間報告会	8
・「facebook」ページでの情報共有	9
・サポーターによるキミチャレ活動レポート 2	10
・子どもたちを追いかけて～ GCTV 取材記～	12
・「キミチャレ 2012」ブログでも情報共有	15
・「キミチャレ 2012」サポーターについて	16
・全チャレンジテーマと挑戦者たち	17
・キミチャレ 2012 成果レポート	20
・今回のご協力企業・ご協力者	25
・教育市民フォーラム第 1 部～成果発表会～	26
・教育市民フォーラム第 2 部～トークセッション～	29
・来場者の声～アンケートから～	30
・参加した保護者の声～事後アンケートより～	31
・参加した子どもたちの声	33
・「キミチャレ 2012」Q&A	34
・「夢と希望への道しるべ キミチャレ 2012」	35
・新聞記事	36
・資料集	39



「キミチャレ2012」事業のねらい

「キミチャレ2012」～キミも今日からチャレンジ、と銘打ったこの事業は、全国でもあまり例を見ない「とにかく子どもたちが自分でやる」ことにとことんこだわったものです。※以下本文中は「キミチャレ2012」を「キミチャレ」とする。

子どもたちは3ページにあるような流れで「自分で考えたテーマ」に「自分で取り組み」ました。一見すると自由研究のようでもありますし、総合学習の一環ともいえるかもしれません。が、根本的に違うのは「**大切なのは成果でも結果でもなく 試行錯誤するプロセスである**」ことを繰り返し共有したことです。子ども自身がやるということはつまり、どこにたどり着くかわからないということです。始まる前も始まったあとも「学習到達目標」のようなクリアなものはありませんでした。要するに正解がない事業であったわけです。

この「正解がない」ことに取り組ませることが大切なねらいでした。学校ではどうしても「答えのある問いに向き合う」時間が大半となります。もちろん、考える力を養うため子どもたちに語りかけ、話し合わせるといことは行っていますが、どうしても子どもたちは「どこかに正しい答

えが一つある」と考えがちになります。

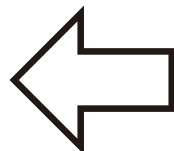
翻って社会はどうなっているでしょうか。

米国デューク大学の研究者、キャシーデビットソン氏は、2011年度に米国の小学校に入学した子どもたちの65%は、将来、今まだ存在していない職業に就くと予測しています。グローバル化は止められない流れになるでしょうし、世界中の誰も経験していない少子高齢化社会を生きていくことはもう、逃れられないものになっています。大人という「先に経験した人間」のいう経験談や正解が使えない時代を生きていくのです。今の子どもたちが生きるのは答えがあらかじめ用意され、先人の例にそって努力すれば成功できる時代から、自ら考え試行錯誤しながら自分で切り開く、そんな時代になっているのです。

そんな時代を生きていく子どもたちに必要な力、それこそが瀬戸市教育委員会の教育目標である「生き抜く力」です。「キミチャレ」は子どもたちが自らのたくましさや弱さに向き合い、試行錯誤しながら進み、その過程で「生き抜く力」を身に付けてもらうためにスタートさせました。

生き抜く力

夢や希望をもち努力すること
失敗や挫折にくじけない心の強さをもつこと
思いやりをもって支えあうこと



◆キミチャレ 2012 では、生き抜く力につながるこんな力を養っています。

- ①自分なりの問いを立てる力
- ②動いてみる力
- ③知らない人と話す力
- ④自分なりにやりかたを考えられる力
- ⑤失敗してもまた頑張れる力



「キミチャレ2012」事業のながれ

6月
エントリー (39P)

- 市内小中学校の、小学校4年生～中学校3年生（約7000名）対象に公募
- 200名の応募の中から「工程が複数日かかること」「実現可能性があること」などをふまえて50組を選考（のちに2組辞退）

7月22日
説明会 (5P)

- 選ばれた親子（50組）を対象に、企画主旨の説明を実施
- サポーター（16P）との顔合わせ
- 子どもたち自身でサポーターの力を借りて行動計画を立てた
- 当日欠席者には、後日改めて説明を個別に実施

8月20日
中間報告会 (8P)

- 目的は「互いの情報共有と勇気づけ」
- 子どもたちはゲームのあと、グループで進捗状況の確認
- 親は別室で「子どもの自立」をテーマにした意見交換会実施
- 教育長から「キミチャレ」の意義についての講話

9月末
レポート提出 (20P)

- 活動は夏休み以降の実施も可とし、レポート提出は9月末に
- 様式を指定していないので、多彩なレポートや作品が集まった。
- プロセスがわかりにくいものについて、学校を通じて内容の追加をしてもらった。

10月
発表者選考

- 全レポートをもとにスタッフ（4人）と教育長により選考
- ポイントは「取り組みのユニークさや難易度」「試行錯誤のプロセスが見えていること」「その子なりの成長度」を総合的に判断
- 10組の発表者を確定し学校へ通知～発表指導を依頼

11月11日
発表会 (26P)

- 全チャレンジャー（48組）のレポート展示（寸評つき）
- 全チャレンジをコンパクトにまとめた記録映像上映（12.13P）
- 代表10組の発表（一組3分）
- 協力企業、サポーター代表からも全体へのメッセージ発表

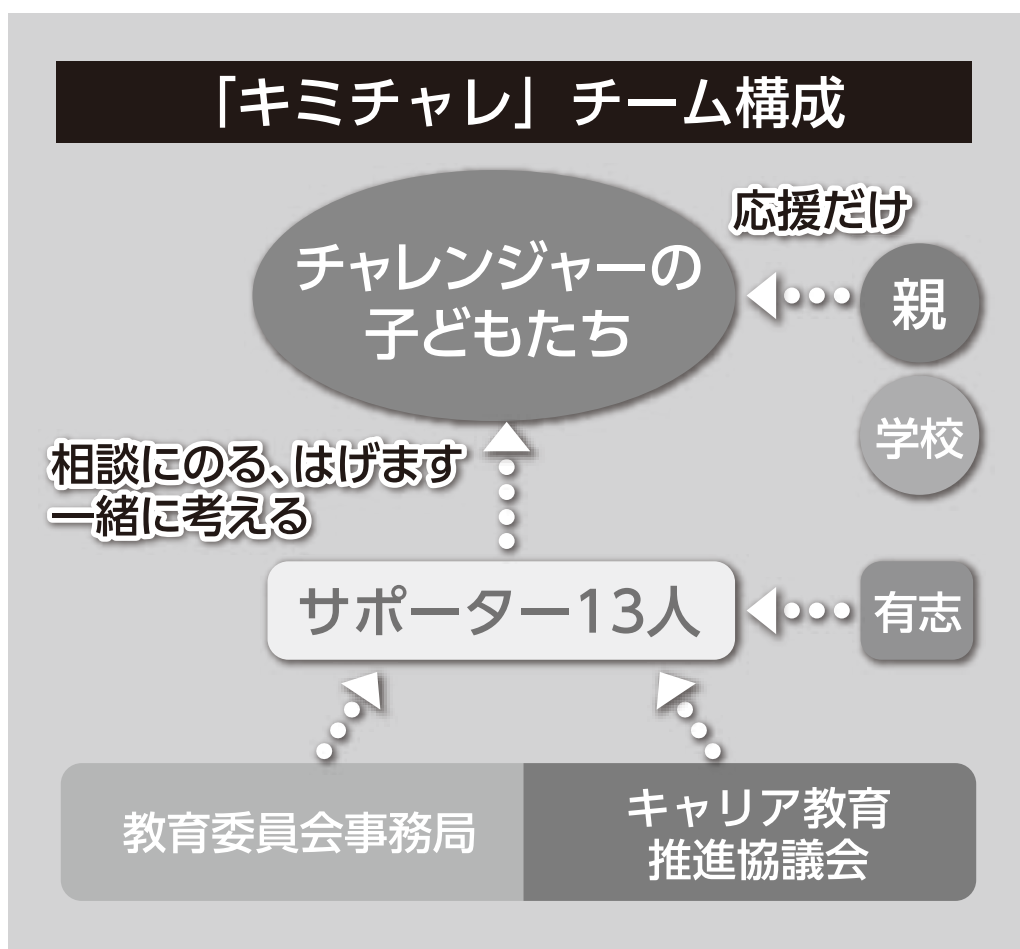


「キミチャレ2012」運営体制 ～サポーターが支える～

「キミチャレ」は市教育委員会とキャリア教育推進協議会（協議会）がともに運営主体となって実施しました。その狙いは2点。1点目は協議会が学校と地域と地元企業の間をつなぐノウハウをもっている組織であるということ。2点目は行政の担当者が人事異動で変わってもノウハウが残され、変わらず継続できる仕組みにすることです。

また、「キミチャレ」最大の特徴は「サポーター」と呼ばれる大人の存在です。初めてのことに取

り組もうと奮闘する子どもたちを支えるのは、親でも先生でもありません。協議会のスタッフ、地域コーディネーター、教育委員会事務局スタッフとさらに、個別にお願いした有志を加えた13人のサポーターにより50組の子どもたちをサポートしました。その体制を作ったうえで、保護者のみなさんには「手と口を出さない」ことを強くお願いし、ご理解いただきました。これは保護者にとってほんとうに忍耐の必要なことでもありました。





説明会 ～自分で作戦を立てることからはじまる～

夏休みに入ったばかりの7月22日（日）。瀬戸市文化センターの会議室でキミチャレ参加者への説明会を行いました。開催の主旨は①「キミチャレ」のルールをお知らせすること②サポーターと子どもたちの顔合わせ③作戦シートをつくる、の3点。なかでも大切なのが③作戦シートをつくる、です。

大人にも覚えがあることですが、なにかをやりたい、やろうと思ってもなかなか実現できません。なぜかという、「いつ」「なにを」「どうする」がはっきりしないからです。子どもたちは「一人で自分のやりたいテーマに取り組むこと」などほとんど初めてです。その状態で「夏休み中に頑張ってね」と放り出せばおそらく大半の子は「何をすればいいのかわからない」で終わってしまうでしょう。あるいは、こっそりと親が指図してやらせることになります。そうならないために「やることを具体的に決めてスケジュールに落とす」ことをしてもらいました。

・自分が何をするのか

・そのためには何が必要か



・どんな順番でやるのか

について、一人ひとりサポーターの助けを借りながら作戦シートを埋めていきました。そして、予定表には「いつやるのか」を書いていきました。これでもとりあえず、いつなにをやるべきかが見えるようになりました。

（くわしくは当日配布資料（40Pに掲載）を確認してください。）

また、作戦シートを作ったことにはもう一つ意味があります。それは子どもたちに「やってみたことがないことに取り組むときの基本的なやり方」を体験してもらうことです。「キミチャレ」でなくても新しいことに取り組む場面は数々あります。そのときにまず、自分で考えるための一つの方法として体験してもらいました。緻密な計画を作った子もいれば、かなりおおざっぱにしか埋まっていなかった子もいましたが、**一番の目的は「明日から何をするのかわかる」こと**。これでどの子もなんらかの形で自分がどう動けばいいのか、何から始めればいいのかについては、まず決めることができました。



説明会プログラム

- 1 アイスブレイク 〈じゃんけん列車でつながろう〉
- 2 参加ルールの説明
- 3 今後のスケジュールの説明 （中間報告会・活動期間・レポート提出日・フォーラム）
- 4 サポーター紹介
- 5 ケーブルテレビからのお願い（記録写真の撮影と映像取材の依頼）
- 6 キミチャレ作戦会議 ※保護者は見学のみで参加しない



サポーターによるキミチャレ活動レポート 1

・7月23日（月）

昨日の説明会に来られなかった、私が担当するチャレンジャー2人と市役所で面談する。

一人は「看護師になりたい」、もう一人は「助産師になりたい」という二人。付き添いで来た母親には、時間を潰してもらい3人で今後の計画を立てる。二人とも話を聞きたい人は決まっているので、まずはその人に電話をかけアポイントを取ることに。

キミチャレのルールで、自分で電話をするということを聞き最初は戸惑っていたが、決断したら早かった。電話で話すことをノートに書いていく。私は聞かれたことに対し、アドバイスをするだけ。

書き終わり、私が見守る横で電話をかける。あいにく二人とも本人が不在だったため、家に帰ってからまたかけることになった。繋がったら私に連絡をしてくれることになった。

また昨日の説明会で、私が担当した「あこがれの先生みたいな医者になりたい」というチャレンジャーから電話が入った。

「先生に会うための電話をかけようと思うが、先生が診察中で電話を取り次いでもらえなかったらどうしたらいいのか」と。「どうしたらいいのかなあ？」と聞くと、「診察が終わる時間を聞いてもう一度電話してみる」との返事。「頑張れ～」とエールを送る。

・7月25日（水）

私が担当する3人のチャレンジャーから、それぞれアポイントが取れたとの連絡があった。なんと、チャレンジが始まってまだ3日目。みんなのすごい行動力に感動。

どんなチャレンジになるのか私もすごく楽しみになってきた。

・7月27日（金）



「あこがれの先生みたいな医者になりたい」というチャレンジャー（小学4年生の女の子）が、先生にお話を聞きに行くというので同行した。

これまでの経緯を聞いてみると、電話をかけることは先生の空き時間が分からないということで断念し、手紙を書いて渡そうとしたが、病院で取り合ってもらえず悩んでいたとか。けれどもたまたまあせもになり病院で診てもらうことに。診察の際、先生に手紙を渡し無事にこの日を迎えた。思いがけぬアクシデントだったけど、いい方向に転んだので結果オーライだね。

・7月30日（月）



「看護師になりたい」というチャレンジャー
(小学6年生の女の子)の同行。

病院の入口で待ち合わせをして中に入る。もちろん、受付で内容の説明をするのも本人。その後、私から足りない部分を説明した。私は保護者か先生に見えるらしい(笑)

看護師さんから、「この病院で一緒に働けるのを楽しんでいます」とメッセージをもらい、とても嬉しそうだった彼女。きっと彼女はこの一言で、夢に向かい頑張ることができると感じた。報告レポートの書き方を聞かれたので、書き方は自由だけど今の気持ちをたくさん書いてね、とアドバイス。

・8月1日(水)

「助産師になりたい」というチャレンジャー
(小学5年生の女の子)の同行。同行先は、彼女と弟が産まれた病院。

なんと彼女は、受付で話すことを考えノートに書いてあった。準備万端。そして、いよいよ先生にインタビュー。質問もノートに書いてあり、その回答を一生懸命書きとめている。先生のご厚意で、彼女が産まれたときのカルテを用意していただき、その時の様子をお話ししてくださった。

その後、スタッフしか入れないところや、分娩室まで案内してくださりと、貴重な体験をさせていただいた。

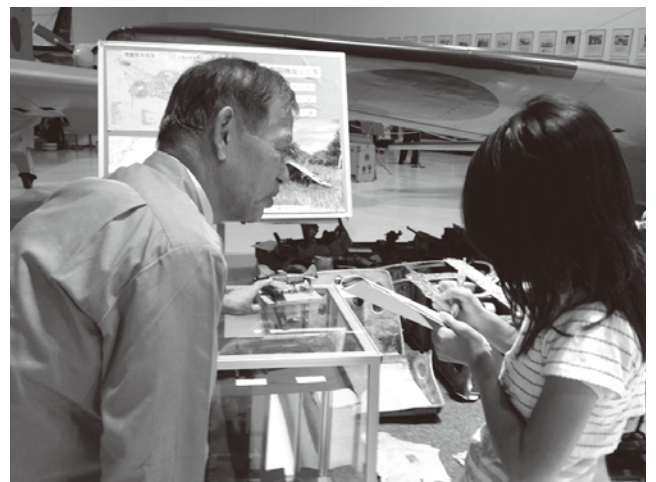
最後に先生とのツーショットの写真をみると、彼女の満足度がよく分かる



・8月2日(木)

「飛行機がなぜ飛ぶのか知り、実験したい」というチャレンジャー(小学6年生の女の子)が、三菱重工の航空宇宙システムの史料室にお話を聞きに行くというので同行。

自分の担当する子が全員終了したため、これからは他のサポーターが同行できないときの助っ人要員として動こうと思う。facebookも立ち上げたので、そこで紹介できるよう、できるだけたくさんの子どもと関わるといいなと考えた。



今回彼女の妹がカメラマンとして同行。3人で車に乗り目的地に向かう。私も飛行機好きなこともあり、飛行機の話で盛り上がる。

目的地に着き、史料室の方から早速説明を受ける。飛行機の歴史から実際に操縦席に座らせてもらったりした後、彼女からいろいろと質問をする。彼女が考えていたペットボトルを使い実験をすることは難しいと言われ、少し落胆した様子。どうするのかな？

色々なことを見て聞いて、そして考えた 1時間半という長い時間。話の中には子どもでは理解するのが難しいこともたくさんあったと思うが、そんな時のために家に帰っても復習できるよう、妹がビデオでしっかりと撮ってくれていた。

帰りの車の中は、二人ともさすがに疲れたのか爆睡だった(笑)頑張ったね。

(文責: サポーター 山田)



中間報告会

「キミチャレ」がスタートしておよそ1か月の8月20日（月）午後、チャレンジしている子どもたちと保護者、サポーターが集まり中間報告会を開催しました。

この会の目的は①お互いの様子を知る②行き詰っている子どもたちを勇気づける③「キミチャレ」事業の意義を再確認の3つ。

また、開催にあたりスタッフが気を付けたことは①子ども同士が進み具合を見て焦ることのないようにする②保護者がよその子と比べて一喜一憂することを避ける、でした。

「キミチャレ」の最大の目的は「子どもたちが自分で考えて試行錯誤するプロセスそのもの」にあり

ます。そして保護者からの「○○しなさい」という指示ではなく、サポーターのヒントやほかの子どもたちからの助言によって自分で考えることを重視しました。それでも素晴らしい活動をしている他の子どもの発表を聞けば保護者としては心配になり、つい口出しをしたくなります。そこで会場では親子でスペースをわけて別のプログラムを実施しました。子どもたちはゲームや情報共有などを行ない、保護者は子どもを見守る大変さや「キミチャレ」への疑問などを共有しました。最後に合流して教育長からのメッセージを伝えましたが話に深くうなずく親子の姿が多く見られました。

中間報告会プログラム

子の部

◆ゲーム

◆情報共有

- ・グループにわかれて実施
- ①どんなふうに進んでいるか
- ②困っていることはなにか
- ③初めてやってみたことはなにか
- ※目的はがんばっていることを認め合う・次に何をするかを見つける



保護者の部

◆ワールドカフェ

「親だからできるキャリア教育」

- ・グループごとにわかれて子どもの取り組み状況や親としての思いの情報交換をし、全体で意見交換

～合流して～ 全体の状況を各サポーターから報告

〈教育長からのメッセージ〉

- ・キミチャレにはゴールはない
- ・チャレンジした一つ一つが尊い
- ・最初の一步を踏み出したみんなは、次の一步がどんどん出せる

など



「facebook」 ページでの情報共有



facebookに「キミチャレ2012」の
ページを立ち上げた日

平成24年7月27日

掲載回数 117回

「いいね！」した人 169人

「いいね！」の総数 2,246 平均19

「見た人」の総数 9,057人

【いいね！が一番多かったのは…8月28日】 71いいね



こんばんは、瀬戸商工会議所の谷口です。

今回紹介するのは、「パティシエになってお母さんの誕生日ケーキをつくりたい」という6年生の男の子です。

自分で書いたイラストを参考に無事ハート型のケーキをケーキ屋さんの指導で作りました。

…もう、お母さんにプレゼントしていると思いますが、お母さんが感激して涙している姿が目に見えます。

これがキッカケで将来は瀬戸で一番、いや日本一美味しいケーキを作るパティシエが誕生するといいいですね！

【見た人が一番多かったのは…8月3日】 875人

こんばんは！キミチャレいいだしっぺ、教育総務課の柴田です。

今日は午後になって、中学1年生の女の子から電話がかかってきました。

「電話したいので、うかがってもいいですか」

わたしたちは子どもたちが訪問のお願い電話をするときは、市役所に来てかけたらどうか～と勧めています。

かけるのは自分だけど、だれかそばにいてあげると勇気がでるし、「教育委員会のこと」を聞かれたら教えてあげられるしね。

それと、おうちでかけているとお母さんがつい、口だししたくなっちゃうし(笑)。

ということで、今日は、アニメを自分で一コマつくってみたいという彼女が一生懸命に探した「教えてくれる人がいそうな学校」へのアポとり電話を隣で聞きました。

(その学校を探すのに行き詰って落ち込んでいたときに、サポーターから電話があって、一筋の光がさしてきた、らしいですよ。お母さんがおっしゃっていましたw)。

彼女は電話をかける前も、か...けている間も手が震えていました。でも、声はしっかり出ていて、言葉遣いもすばらしかったので「上手に話せたね」と声をかけるとびっくりしてました。

「おかあさんにはいつも、下手っていわれます」って。そうかー、緊張感があって、一生懸命考えてきていたからうまく話せたのかもね。

下書きしていっぱい直したあとのある原稿を握りしめてきていましたから。

学校は今日、担当の先生がいないようで、でも、電話に出てくれた方がずいぶんやさしく応答してくれたようで、確認して連絡をくれることになりました。

無事、はじめてのチャレンジを一つ終えて、ニコニコして好きなアニメの話をたくさん聞かせてくれた彼女は、とってもかわいらしかったです。

そうそう、好きなアニメが我が家の高3の次女が中学のときに好きだったアニメと同じだったおかげで、ちょっぴり盛り上がったのもラッキーでしたね(人生にはまったく無駄がない・笑)

キミチャレは、ゴールよりもプロセスが何倍も楽しいです。うーん。役得！



サポーターによるキミチャレ活動レポート2

・8月6日（月）

「建築家になりたい」というチャレンジャー（小学5年生の女の子）が、話を聞きに行くというので、担当サポーターと一緒に同行。

待ち合わせをして、彼女のお母さんも一緒に訪問する。お母さんより、彼女が最初に電話でお願いしたところに断られたことを聞く。彼女曰く、「最初凹んだけど、もう1回頑張ってみようと思って電話をした」という。それだけでも拍手！



建築家の方に会い、「キミチャレ」のこと、自分がなぜ建築家になりたいのか、しっかりと伝えることができた。

また、建築家の方も、彼女の質問に対し真剣に答えてくださり、まるで大人同士の会話を聞いているようだった。子どもの真剣な気持ちが大人を本気にさせるのだと感じた。

最後に、建築家の方から、彼女に「建築家にかかせないもの」をプレゼントされた。彼女にとってかけがえのない宝物になったと思う。

・8月7日（火）

「とび箱10段とびたい」というチャレンジャー（小学4年生の女の子）の担当サポーターから手伝ってほしいという依頼を受け体育館に。

彼女のサポーターは、「50mを8秒で走りた

い」を見るということで、私が彼女のサポートをすることになる。

とび箱に10段はないということが分かり、大人用の8段に挑戦することに変更。彼女はもうすでに子ども用の8段を飛べるということで、今回のチャレンジは楽勝だと誰もが思っていた。

まずは小学生用の8段から練習。もちろんクリア。そして、大人用の5段から挑戦。しかし、大人用は幅も長さも高さも一回り大きく、「怖い」という気持ちが先に出てしまい、勢いもなくなり、今まで飛べていた小学生用のとび箱さえ飛べなくなってしまった。サポーターとしてできる限りのアドバイスをするが、技術的なことではなく、精神的なことの方が大きいように思った。私は励ます以外でできず悔しい想いが残る中、最初の練習は終了した。

・8月8日（水）

「介助犬について学びたい、ドッグトレーナーになりたい」というチャレンジャー（中学2年生の男女）が、介助犬訓練センター「シンシアの丘」に体験に行くというので見学に行く。二人は同じ中学校で、別々にエントリーしたのだが、同じ場所に行きたいということで一緒に行動することになる。

最初、体験をさせてもらうように電話をする時、女の子が話すことを考え、男の子がそれを読み電話をかけるという姿に今どきの男女の縮



図を見たような気がした（笑）

当日、施設の方から説明を聞いた後、実際に介助犬の世話をすることになった。大きな介助犬の前で、女の子はさすがに犬を飼っているのか堂々と世話をすることができたが、男の子は初めて触る大きな犬に戸惑い気味。でも介助犬を知るために彼にも頑張ってもらいたいと思った。

私は途中で帰ってしまったが、その後、車いすに乗って介助犬に指示をだす体験ができたらしい。二人にとっては念願の体験ができたと思うので、今回学んだことを忘れないでほしいと思った。

・8月21日（火）



「ファッション雑誌を作りたい」というチャレンジャー（小学5年生の女の子）のサポーターから依頼を受け、彼女が「名古屋ファッション専門学校」へ話を聞きに行くというので同行。

学校の前で集合し、受付で担当者に取り次ぎをしてもらう。担当者には、彼女が最初の電話の時に、しっかりと「キミチャレ」の趣旨を説明しており、私が説明する必要はなかった。これってすごいこと。

担当者にファッションのこと、何をしたらいいのかなど色々な質問をした後、自分でデザインしたものを見てもらい、どうしたらよいかアドバイスもらっていた。その後、学生がデザインした服を色々見せてもらい、とても嬉しそうだった。

帰り道、彼女のお母さんから、「自分の子が

ここまでやれるとは思わなかった。誇らしく思います」と言われた。「たくさん褒めてあげてくださいね」と伝えた私も嬉しい気持ちでいっぱいだった。

・8月30日（木）

とび箱の彼女、最初の練習日から4回の練習を経て、今日は最後の練習日。

「恐さ」を克服しながら、なんとか大人の7段が飛べるようになった。しかし、飛べたはずの7段がある日は飛べなくなったり、また飛べるようになったりと一進一退を続けていた。

今日はさすがに最終日とあって、気合いで7段まで飛び8段に挑戦。熱い体育館での練習、足には痣のあとがたくさん残っているが、全く諦める気配もなく、こちらも応援に気合いが入る。でもどうしても最後の8段が飛べない。あと残り10分となったところで、足が少し引っ掛かるけど飛べた？ ような。「もうほとんど飛べてるよ！」と励ます。最後にもう1本というところで、ついに8段クリアできた！

このときの感動は、彼女のサポーターになったからこそ味わえたこと。彼女の頑張りや、頼りない私の言葉を聞いてくれたことに感謝。

今回のサポーターをさせてもらい、子どもをサポートするよりも、逆に子どもから学ぶことばかりだった。子どもからたくさんの感動や元気がもらえ、「キミチャレ」に参加して本当に良かったと思った。



（文責：サポーター 山田）



子どもたちを追いかけて ～GCTV取材記～

「キミチャレ」では子どもたちの活動を記録するために、グリーンシティケーブルテレビが「追っかけレポート」を作成しました。その模様は11月11日（日）開催の教育市民フォーラムの場で上映されました。

ケーブルテレビスタッフにとっても「キミチャレ」ってなに？ということがよくわからないまま、撮影はスタート。すべての子どもを取材することも難しいなかで、エントリーシートと説明会での様子から追っかけ取材させてもらう子どもたちを決め、複数のディレクターが取材をしています。1、2日の取材もあれば、何日も追いかけた場合もあります。12人を追いかけて、ともに感動した夏でした。

上村洸太くん

50メートル走8.0秒で走れるようになりたい！

初めて会ったのは練習初日、とても暑い日でした。第一印象は“気弱そうな男の子”という感じでした。それから数日、練習の度に取材におじゃましていたのですが、みるみる内に、たくましく成長していくのがわかりました。挑戦するって子どもに大事なことなんだなあ。

吉野友海さん

アナウンサーの仕事を経験したい！

初めてグリーンシティに電話があったのが8月上旬のこと。とても緊張した様子で、声が震えていたことを覚えています。その後、グリーンシティに来てアナウンサーたちと話せることになった吉野さん、今度は緊張のあまり声が出なくなってしまうしました。それでもインタビューをする場面では、きちんとメモをとり、聞きたいことをちゃんと聞くことができていました。

池戸慎之助くん

パティシエになってお母さんの誕生日ケーキをつくりたい！

池戸くんと初めて会ったのが7月に行われた説明会。「お母さんの誕生日にケーキを作って贈りたい！」と話してくれた時の輝いた顔を、いまでもしっかりと覚えています。なぜなら年頃の男子、たぶん私なら恥ずかしがってしまうようなコメントを、はっきりと言い切ったからです。実際にケーキをプレゼントして、お母さんとハグしている姿を見たとき、グッときて涙が出ました！



鈴木野乃子さん

人形の洋服を作りたい！

鈴木さんの挑戦は、協力してくれたアトリエトレの井口さんとの二人三脚でした。熱心に教えてくれる井口さんとそれに答える鈴木さん。もちろん鈴木さんが一生懸命チャレンジに臨んだからこそ井口さんの指導にもより熱が入ったんだと思います。しかし、キミチャレに参加した子たちの中には、協力してもらえる大人に巡り会えず苦労した子たちもいました。夏休みをかけて作ったブランドシートはもちろん、こうした大人に出会えたことも鈴木さんにとって価値のあるものだったと思います。

吉村裕大さん

ひみつ基地が作ってみたい！

「キミチャレ」の担当になり、最初取材に行ったのが吉村くんでした。カメラがあることで、子ども達のやる気をかきたてるような関係づくりができたかと、私自身も少し緊張しながら、初めての顔合わせをしました。吉村さんの印象は、小学生ながらきちんと敬語を話せるし、作りたい基地のビジョンや、チャレンジを達成するまでの計画をしっかり立てていたので、しっかりした子なんだと感じました。さっそく基地をつくる場所を借りるための電話をすると、断られてしまいました。落ち込んでしまうかなと思いましたが、吉村くんは、ダメだったら次はこうしよう！という頭の切り替えが早く、くじけることはありませんでした。頼もしいチャレンジャーでした。

中谷拓人さん

自分だけのグローブを作りたい！

自分で決めたチャレンジに、自分一人で行き組んで、グローブを作る会社を探したり、メールで連絡したり。お母さんに「行動力があるんですね」と聞いたところ「普段はそんなことないけれど、野球のこととなると」という返事。チャレンジテーマを自分で決められる「キミチャレ」だからこそ、中谷くんのように頑張れる子どももたくさんいるんだろうな、と感じました。

武藤絢音さん

アニメのコマを自分で作ってみたい！

最初に取材のお願いをしたときは、あまり乗り気じゃなかった武藤さん。目立つことが好きじゃないからどうしよう…、と不安そうでした。でも実際に取材を始めてみたら、自分が将来何になりたいのか、どうして「キミチャレ」に参加したのか、しっかりと自分の気持ちを言葉にして話してくれました。特に自分の絵について話すときは本

当にうれしそうに色々教えてくれて、絵が好きなことがすごく伝わってきました。武藤さんにとっては、テレビに出演するということも「キミチャレ」をきっかけに体験したもう一つのチャレンジだったように思えます。

山口晏奈さん

飛び箱で10段とべるようになりたい！

きっとすぐに飛べるんじゃないかなと思って撮影を開始したのを、はっきりと覚えています。ところが中々クリアできない中で、山口さんの頑張りが小さなドラマを作り上げることになりました。私自身、大人用の8段の飛び箱を飛んだ瞬間に立ち会うことはできなかったんですが、サポーターの山田さんが撮影した映像でこれまた涙しました。本当に「キミチャレ」っていいですね！



渡邊くるみさん

チアリーディングの上に乗る人をやりたい！

中学生の渡邊さんは小学生から続けているチアでアクロバティックな演技がしたいと、瀬戸のチアリーディングで有名な高校に電話をしました。しかし何度電話しても、つながりませんでした。別の団体に電話をしたのですが、結果、時間オーバーで挑戦することができませんでした。しかし、渡邊さんにとって、この夏休みは、大人としての成長が実感できた夏休みだったと思います。

日比野由奈さん

お医者さんの仕事を見たい！

私が、「キミチャレ」で初めて取材をしたのが日比野さんでした。緊張した様子で手土産のお菓子を手渡す姿にこれが「キミチャレ」なんだな、と思ったことを覚えています。家族や先生じゃない大人と関わる事。大人になれば当たり前ですが、子どもにとってはそれだけで大きな挑戦だということが日比野さんを見ていてよく分かりました。



岩崎李音さん

大道芸人さんにディアボロを教わりたい！

初めの取材は、練習風景の撮影とインタビューでした。「キミチャレ」の目標を聞くと、岩崎さんは「小さくてもいいからステージがやりたい」と話してくれました。そこで、グリーンシティで何か協力したいと、せともの祭のステージで発表する場をつくることができました。大きなステージでの発表がきまり、岩崎さんはドキドキとワクワクで目を輝かしていました。そこからは「気まずい」と言いながらも、憧れの大道芸人“はなまるさん”へ、教えてもらおう交渉にいったり、体中にあざをつくっても、毎日練習に明け暮

れたりと挑戦が続きました。そして迎えた発表本番。普段は失敗してしまう大技も一発で決まり、大成功。緊張していないわけがないのですが、重ねた練習が大きな自信になったんだと思います

大澤唯菜さん

警察官になって、交通安全を呼びかけたい。

大澤さんの取材は、一日警察官の体験が決まっている状態から始まりました。一日警察官の体験を前にした気持ちをインタビューにいくと、恥ずかしいのか、なかなか話してくれませんでした。しかし、将来の夢を聞くと、表情が変わり、堂々とした表情で教えてくれました。「警察官になりたい」。そう力強く語る彼女は、夢に向かって一直線で、一日警察官の当日も、お年寄りにやさしく声をかけ、交通安全を呼びかけていました。

取材・文

グリーンシティケーブルテレビ株式会社



「キミチャレ2012」 ブログでも情報共有

「キミチャレ」の活動は関わった誰にとっても初めてのことで、「どんな意味があるのか」「いったい子どもたちは何をしているのか」手探りでした。プロセスが大事、といているからにはそのプロセスをみなさんに見ていただきたい、そんな思いから教育委員会事務局が毎日ブログでお知らせすることにしました。すでに7月より先行してフェイスブックページ（9P参照）を運用していま

したが、フェイスブックページを見るためには個々人で「アカウント」を取得する必要があるもので、より多くの方に気軽に見ていただけるように、ブログも遅れて9月からスタートさせました。

その後は成果発表の場である11月の教育市民フォーラム当日まで毎日公開し、保護者の方や子どもたちにとっても事務局にとってもよい記録となりました。

瀬戸の教育市民フォーラム キミチャレのブログ

<http://ameblo.jp/setokimichare/>

*アメーバブログを利用

● ブログ掲載のテーマ（抜粋） 9月3日～11月11日まで毎日更新（73記事）

日 付	タイトル
9月3日	挑戦がこどもたちの未来を拓く
9月4日	子どもにはもともと、挑戦する力があると思い知った夏
9月7日	「キミチャレ2012」の裏テーマは「親チャレ」だった？
9月8日	やることは決めた！じゃあどうすればできるのか？「作戦シート」を作る意味
9月9日	体験そのものもダイジだけれど、作戦を自分で考えることがダイジなのです
9月11日	子どもたちのチャレンジ2 ファッション雑誌に自分のデザインをのせたい
9月12日	子どもたちのチャレンジ3 でんじろう先生のような実験をしてみたい
9月18日	番外編 子どもたちのチャレンジはもちろんうまくいくばかりではない
9月19日	子どもたちのチャレンジ7 東日本大震災の被災地でボランティアをしたい
9月20日	子どもたちのチャレンジ8 プリウスの製造工程をみてみたい
9月21日	キミチャレのこどもの成功と失敗、まわりはどう受け止めている
10月8日	「キミチャレレポート」感動が伝染中でとまりません
10月10日	子どもたちのチャレンジ19 マジックを覚えて人気者になりたい
10月22日	子どもたちのチャレンジ28 プラネタリウムの裏側の仕事をしりたい
10月31日	子どもたちのチャレンジ35 自分だけのグローブを作りたい
11月11日	チャレンジがこどもたちの未来を拓く
最 終 回	「キミチャレ2012」から「キミチャレ2013」へ



「キミチャレ2012」サポーターについて

サポーター（13人）とは…

電話や対面で相談にのったり、励ましたり、一緒に考えたり、場合によっては活動への付き添いなど、内容に応じて夏休み中に可能な範囲でチャレンジャーの子どもたちの応援を行う人。教員志望の大学生、教育の専門家から市内に住むお母さんまで教育に思いのあるメンバーが無償で参加してくれました。（順不同）

有志（5人）

・一尾茂正さん ・小井出博文さん ・片野慶子さん ・倉橋和世さん ・林かなこさん

瀬戸キャリア教育推進協議会（6人）

・谷口利仁 ・津金千津 ・柘植洋子 ・内藤順子 ・中本紀子 ・山田素子

教育委員会事務局（2人）

・柴田朋子 ・鈴木博也

《キミチャレ2012を終えて サポーターからのメッセージ》

- ・大人のこちらがチャレンジャーに電話するにも、とても緊張しました。1対1の関わりは新鮮で、それぞれの個性とがんばりがあり、かわいかったです。
- ・夏休みの間中は、心のどこかにチャレンジャーのことがありました。
- ・いつも学校で見かける子ども達の姿とはまた違う一面がみられて色々感じました。保護者の方を巻きこんでのチャレンジでしたが、今度はもう少し子どもが一人でできるような体勢ができるといいなと思います。（なかなか難しいでしょうが・・・）
- ・子どもたちが自分の夢や目標に向けて行動する姿を、少しだけ近くでサポーターとして見守らせていただきましたが、たくさんのことを教わったのはこちらのようになります。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。
- ・「子どもたちの一番熱い夏」は、子どもたちの可能性に驚き、成長に感動した大人たちの「一番熱い夏」でもあったはずです。子どもたちと試行錯誤しながら、文字通り突っ走った夏は、私にとってもかけがえのない経験となりました。
- ・自分のやりたいことに向けて、勇気を振り絞って一步を踏み出した子どもたちが、どんどん自分で考え動くようになっていったことに感動を覚えました。
- ・中間報告、最終発表会と自信に満ちて子どもたちの表情が変わっていったのが印象的で、子どもたちの成長を間近で見る貴重な体験となりました。
- ・親と子や先生と生徒の関係とも異なる「ナナメの関係」が良かったと思いました。
- ・今回のサポートを通して、逆に忘れかけていたチャレンジする勇気を思い出せてもらうことができました。
- ・サポーターを依頼された当初は、自分の得意分野でお手伝いするのかと思っていましたが、蓋を開けたら、私には馴染みのないファッション業界・アナウンサー志望の子どもたちを担当～！結果、一緒に道なき道を模索していくことで私も学ぶことが多いチャレンジとなりました。



全チャレンジテーマと挑戦者たち

「キミチャレ」のテーマは4つの部門に分かれています。そのなかで自由に子どもたちが好きな部門を選び、工夫を凝らした挑戦をしました。

部門は、すべての子どもがなにかその子の得意なこと、興味のあることを活かせるように設定しました。「活発で勉強の得意な子」に限らず、それぞれが自分なりのかかわりができるようにしています。部門ごとの境目はあいまいなので、子ども自身がエントリーしたものを尊重しています。また、部門があることで「どういうテーマがやりたいか」を考えるヒントにもなっています。

【部門】

1. あこがれの仕事・・・やってみたい仕事や興味のある仕事について調べたい、体験したい
2. スポーツ・・・自分の記録への挑戦、苦手な克服、誰かに教わってうまくなりたい
3. ものづくり・・・何か自分で作ってみたい、ものづくりの秘密を知りたい
4. ボランティア・・・誰かのためになにかをしたい、ボランティア活動に取り組みたい
5. ふしぎ探究・・・「なぜ」「どうして」ふしぎに思うことを徹底的に調べたい

●あこがれの仕事 29件 *学校・学年は応募時

	名 前	学 校	学 年	内 容
1	磯部 汐里	幡山東	5	ファッション雑誌を作りたい
2	宮川 留奈	幡山東	5	着る人がよろこんでくれる服をデザインして作る
3	神谷 寧々	古瀬戸	5	作家にあこがれているので作家のことを何でも知りたい
4	武藤 綾音	南 山	1	アニメのコマを自分で作ってみたい
5	前田 幸祐	原 山	4	漫画家に近づいていろんなことを知りたい
6	吉野 友海	西 陵	5	アナウンサーの仕事を体験したい
7	小谷 萌夏	效 範	6	ウェブでゲームをつくりたい。意味のあるものにしたい
8	竹内麻耶華	幡 山	3	プラネタリウムの仕事にとりくみ将来は天文学をやりたい
9	山住 優斗	品野台	5	でんじろう先生のような面白い実験をする人になりたい
10	花岡 愛理	品 野	3	職場体験で面白かった美容師をもっと知りたい
11	岩崎 奈緒	效 範	6	将来の夢は保育士なので、1日も長く子供と遊びたい
12	大澤 唯菜	幡山東	5	警察官になって、交通ルールを守るように注意したい
13	堀尾 綾菜	幡山東	5	歌を作って学校で広めて人気者になりたい
14	平山 義樹	下品野	5	将来宇宙飛行士になりたいので、そのための勉強をしたい
	平山ななみ	品 野	1	同上
15	岩崎 李音	深 川	5	大道芸人のパフォーマンスを見てディアボロを覚えたい
16	坪井 蓮弥	長 根	5	マジックを覚えて長所にしたい



全チャレンジテーマと挑戦者たち

●あこがれの仕事 29件 *学校・学年は応募時

	名 前	学 校	学年	内 容
17	山田 茉映	水野中	1	CAについて知りたい、学びたい
18	小椋 浩樹	西 陵	6	トヨタプリウスの製造過程を見たい
19	加藤 実咲	古瀬戸	5	陶器を学び、色付けの体験をして将来は祖父母を継ぎたい
20	佐藤 凜	東 山	5	建築家になりたい。
21	橋本 夕波	陶 原	5	助産師の仕事を将来やってみたいので体験してみたい
22	福西 彩乃	效 範	6	入院したとき親切にしてもらった看護師のことを知りたい
23	日比野由奈	水野小	4	医者の仕事を見たい。青山病院の長江先生と会いたい
24	池戸慎之助	陶 原	6	パティシエになってお母さんの誕生日ケーキをつくりたい
25	高村 季紗	掛 川	6	一人でお菓子をつくってみたい
26	日高 雪菜	水無瀬	2	動物園の飼育員になっていろんな動物と触れ合いたい
27	青山 美月	陶 原	5	獣医の仕事でドリトル先生のようにになりたい
	北條 沙奈	陶 原	5	同上
28	矢野 健太	幡 山	1	シンシアの丘で介助犬を学びドッグトレーナーになりたい
	鈴木 花菜	幡 山	1	ドッグトレーナーになりたい。シンシアの丘にいきたい
29	白井 隆暉	八 幡	6	兄弟で協力してライオンの世話をしたい
	白井 陵雅	八 幡	4	同上

●スポーツ部門 5件 *学校・学年は応募時

	名 前	学 校	学年	内 容
1	上村 洸太	道 泉	4	50m走を8.0秒で走れるようになりたい
2	渡邊くるみ	南 山	1	チアリーディングの上に乗る人をやりたい
3	澤田 琴美	西 陵	6	バク転をできるようになって目立ちたい
	船橋 実森	西 陵	6	同上
4	加藤 愛梨	幡山東	5	バスケットを教えてもらいたい。チームを盛り上げたい
	松浦 妃七	幡山東	5	同上
5	山口 晏奈	陶 原	4	飛び箱で10段とべるようになりたい



全チャレンジテーマと挑戦者たち

●ものづくり部門 7件 *学校・学年は応募時

	名 前	学 校	学年	内 容
1	斉藤 陽	本 山	2	電池で動くものや太陽光発電で動くものを作りたい
2	吉村 裕大	東 山	4	ひみつきちが作ってみたい、ツリーハウスなど
3	堺 汐李	西 陵	4	陶器の勉強をしたい、作ってみたい
4	安間 美奈	效 範	4	風鈴の音が好きなので風鈴を作りたい
5	大浦 桃子	幡山東	5	大好きな和菓子を自分一人で作ってみたい
	錦織 和乃	幡山東	5	同上
6	鈴木野乃子	幡山西	5	ぬいものが好きなので、人形のお洋服がうまくできるようになりたい
7	中谷 拓人	陶 原	5	自分だけのグローブをつくりたい

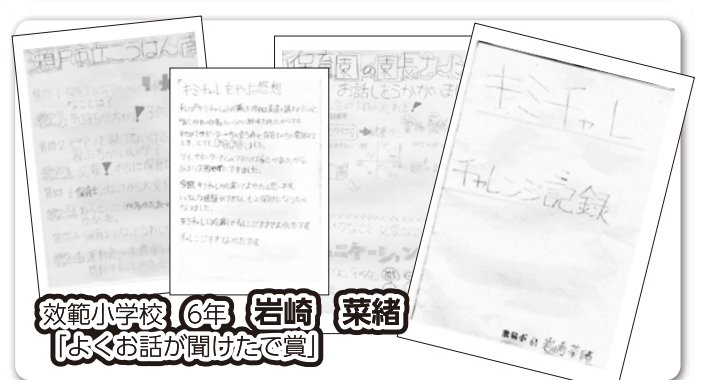
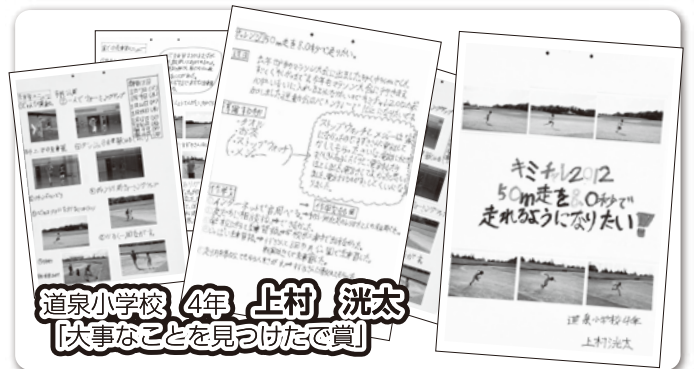
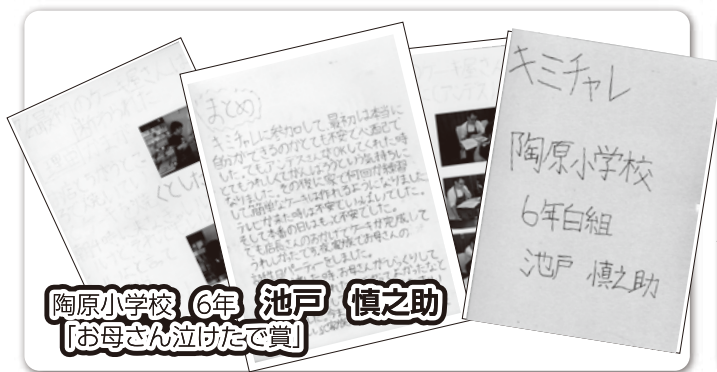
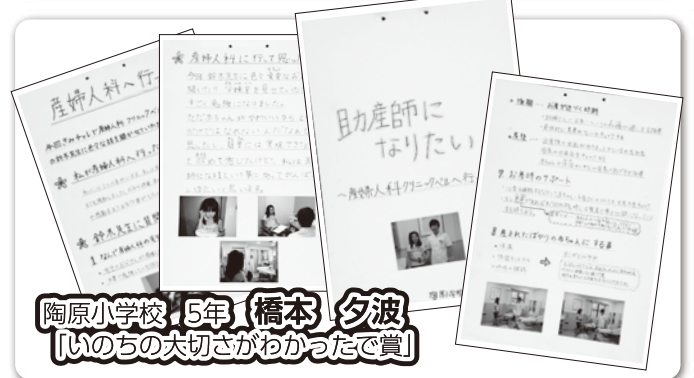
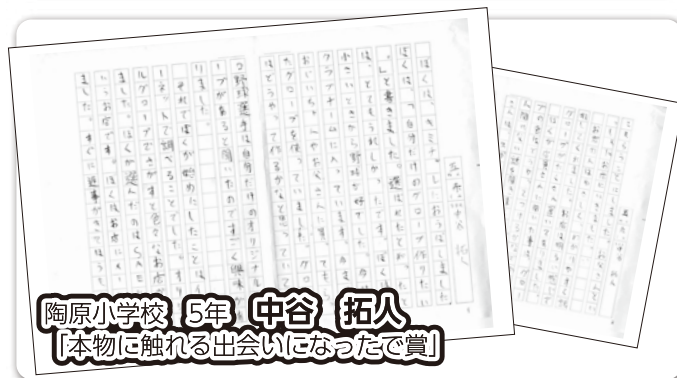
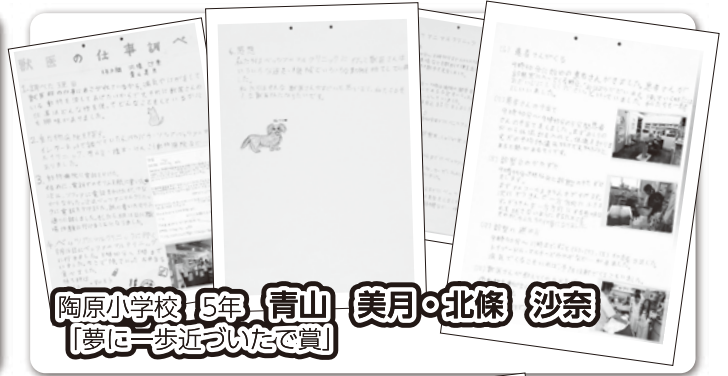
●ボランティア部門 2件 *学校・学年は応募時

	名 前	学 校	学年	内 容
1	勝股 香	光 陵	2	東日本大震災の被災地でボランティアをしたい
	籠橋真由子	光 陵	2	同上
	立花 早紀	光 陵	2	同上
2	古城 聖	祖 東	1	デイサービスセンターでお手伝いをしたい

●ふしぎ探究部門 5件 *学校・学年は応募時

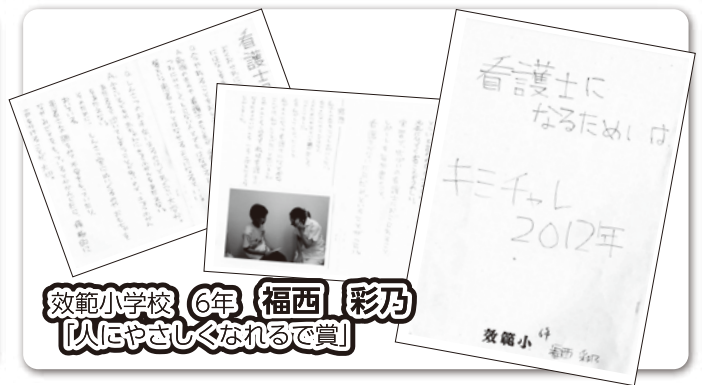
	名 前	学 校	学年	内 容
1	林 侑司	幡 山	3	河川調査（魚昆虫、水温、水質など科学的に分析したい）
2	藤吉 美玖	萩 山	5	ケーキの生地不思議や、焼き色のつく仕組みを調べる
3	江尻 愛佳	品 野	1	水の惑星、地球の水とほかの惑星の違いについて
4	成瀬 未来	東 明	6	飛行機がなぜ飛ぶのか、実験して探りたい
5	加藤 吉和	祖母懐	5	土について、浄化作用、陶器に向く土は、など

合計 48件（総応募人数 201人・件数 179件）





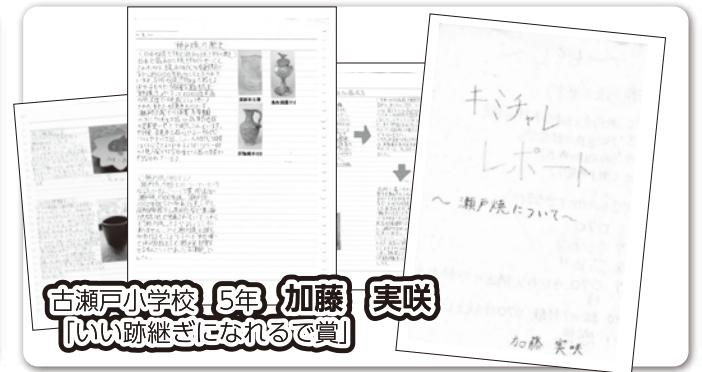
効範小学校 6年 小谷 萌夏
「元気取材できたで賞」



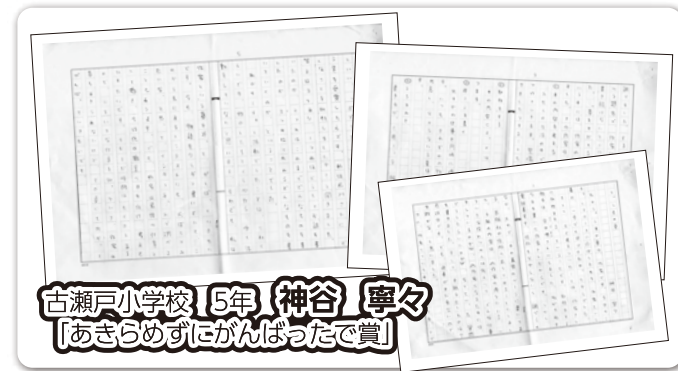
効範小学校 6年 福西 彩乃
「人にやさしくなれるで賞」



東明小学校 6年 成瀬 未来
「最後まで目標を見失わずがんばれたで賞」



古瀬戸小学校 5年 加藤 実咲
「いい跡継ぎになれるで賞」



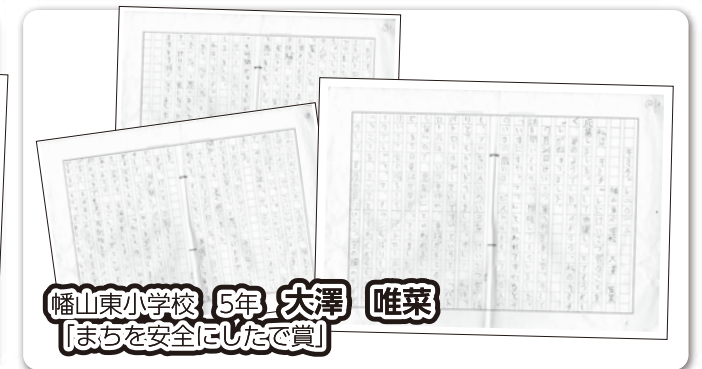
古瀬戸小学校 5年 神谷 寧々
「あきらめずにがんばったで賞」



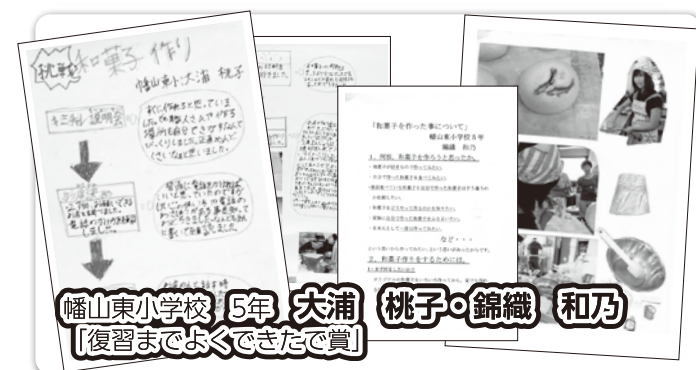
水野小学校 4年 日比野 由奈
「七転び八起きでがんばったで賞」



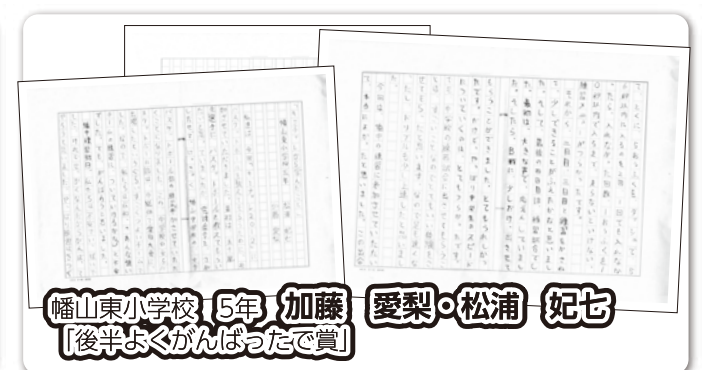
幡山東小学校 5年 磯部 汐里
「説明力すばらかったで賞」



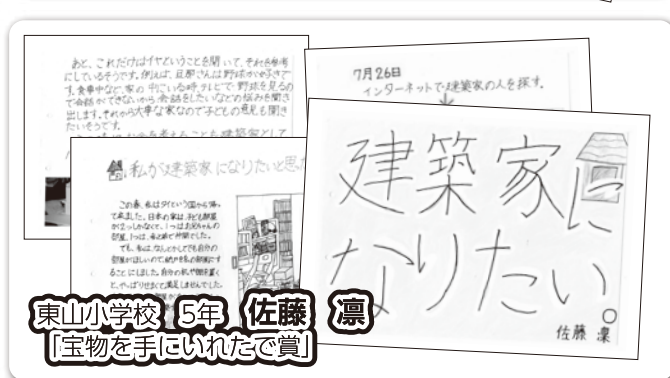
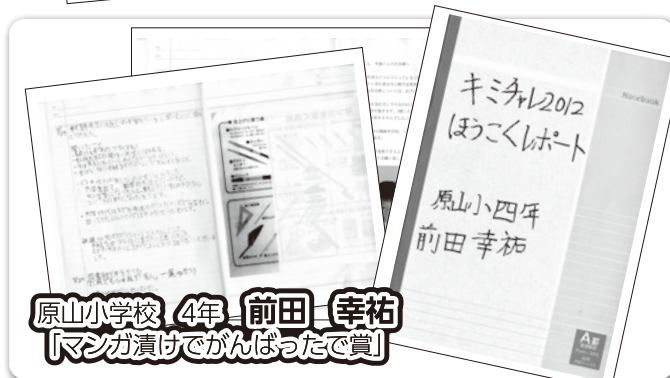
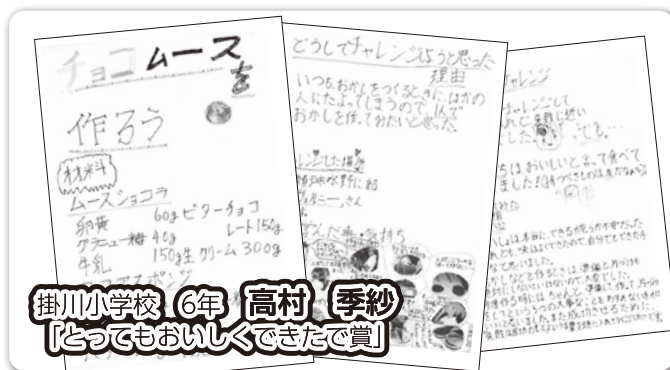
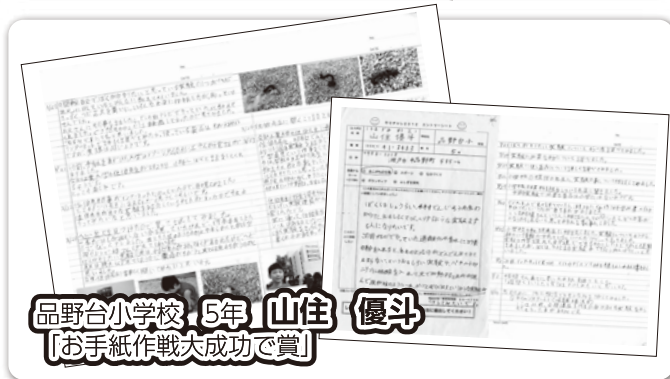
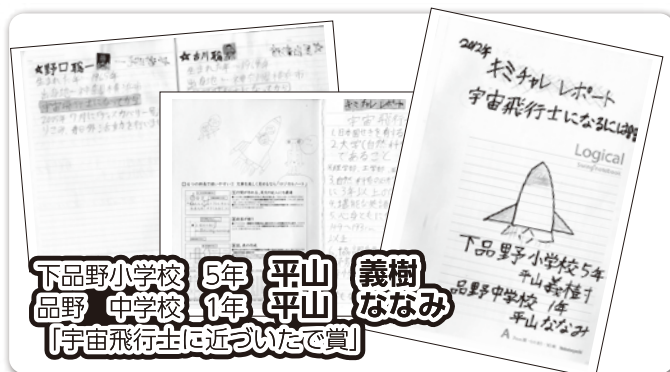
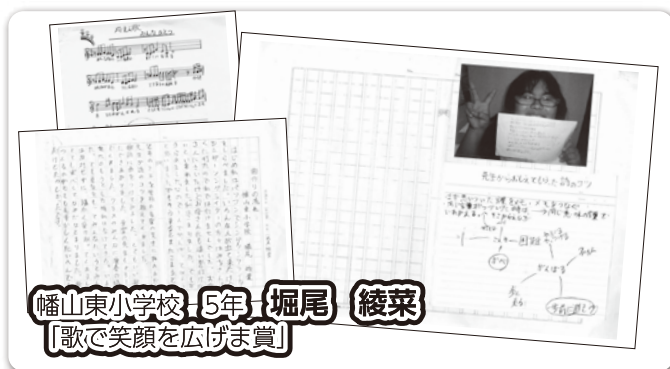
幡山東小学校 5年 大澤 唯菜
「まちを安全にしたで賞」



幡山東小学校 5年 大浦 桃子・錦織 和乃
「復習までよくできたで賞」

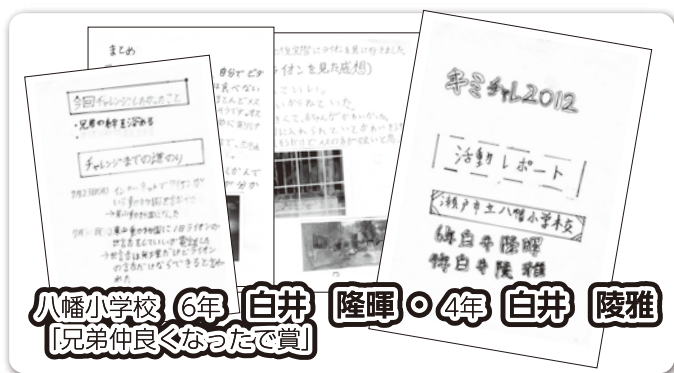


幡山東小学校 5年 加藤 愛梨・松浦 妃七
「後半よくがんばったで賞」





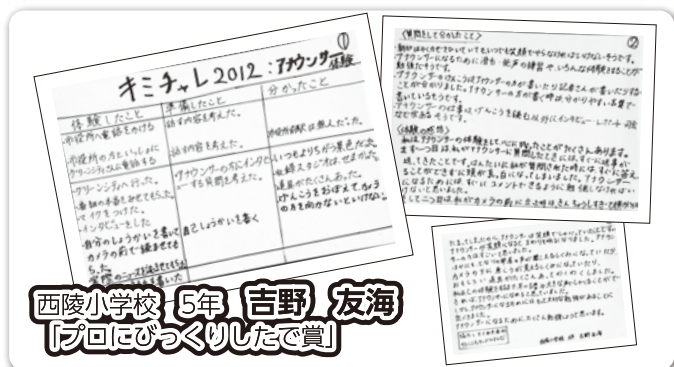
萩山小学校 5年 藤吉 美玖
「発想がすばらしいで賞」



八幡小学校 6年 白井 隆暉・4年 白井 陵雅
「兄弟仲良くなったで賞」



西陵小学校 4年 堺 汐李
「たくさん勉強し作品作りもがんばったで賞」



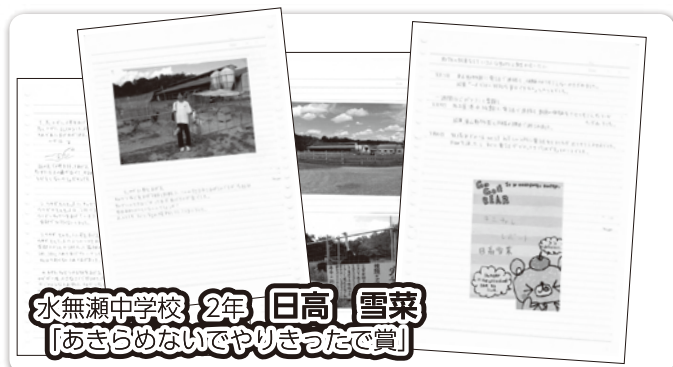
西陵小学校 5年 吉野 友海
「プロっぽく仕上げたで賞」



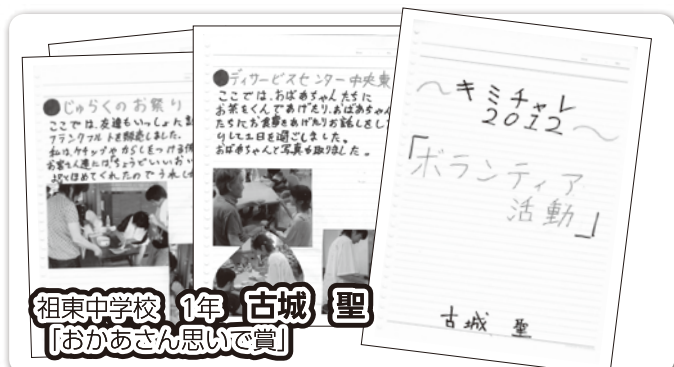
西陵小学校 6年 小掠 浩樹
「足を使ってよく調べたで賞」



西陵小学校 6年 澤田 琴美・船橋 実森
「ちゃんとマスターできたで賞」



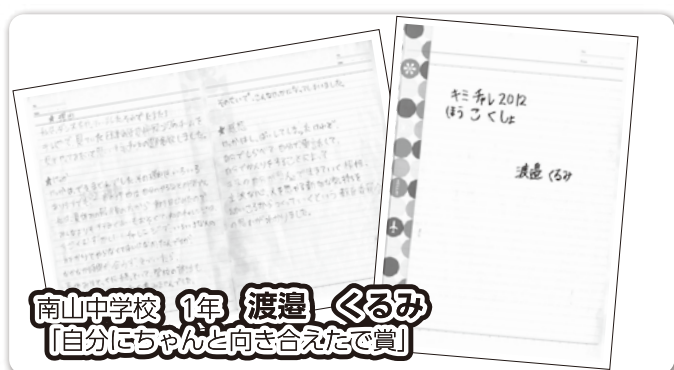
水無瀬中学校 2年 日高 雪菜
「あきらめないでやりきったで賞」



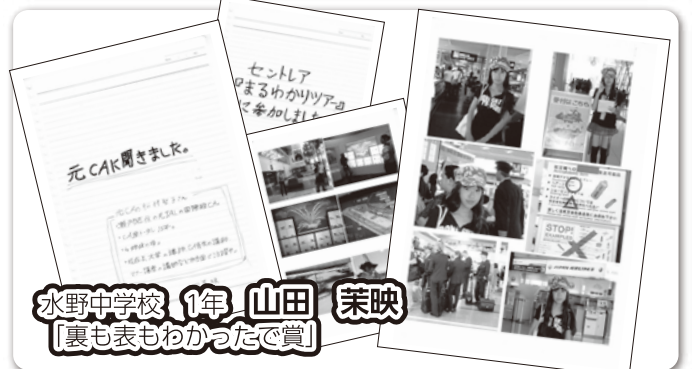
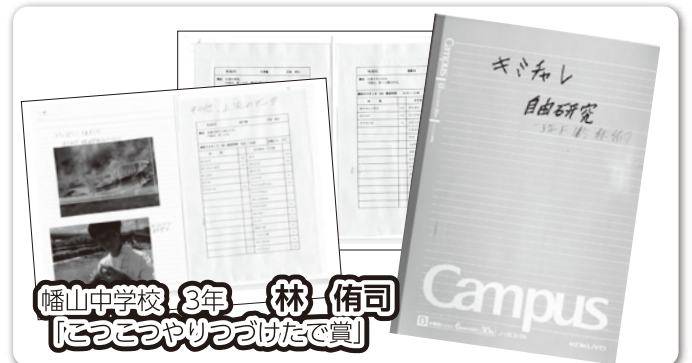
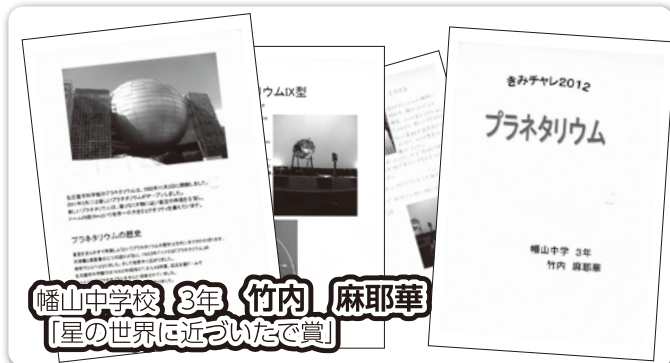
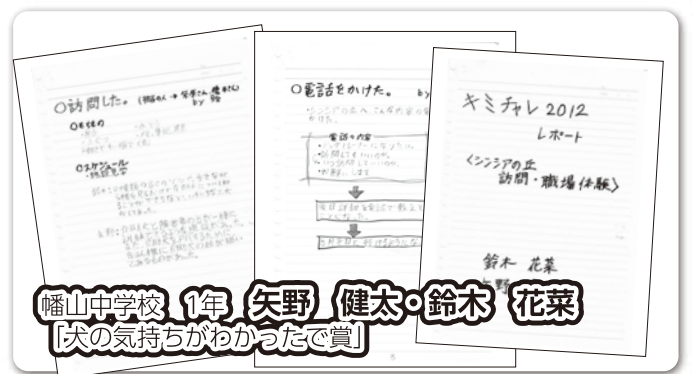
祖東中学校 1年 古城 聖
「おかあさん思いで賞」



南山中学校 1年 武藤 絢音
「夢に一步近づいたで賞」



南山中学校 1年 渡邊 くるみ
「自分にちゃんと向き合えたで賞」





今回のご協力企業・ご協力者

○今回のご協力企業・ご協力者（順不同・敬称略）

- アトリエ・トレ ●愛知工業大学エクステンションセンター 佐伯平二教授 ●愛知県陶磁器工業協同組合 ●あおばクリニック
- 青山病院 長江先生 ●アンデス洋菓子店 ●朝日新聞瀬戸支局 ●一里塚本業窯 ●井上邦雄 ●(有)高松園製陶所
- 加藤木工所 ●(有)神谷建具製作所 ●こうはん南保育園 ●介助犬総合訓練センター～シンシアの丘 ●クリニックベル
- ケアハウス聚楽 ●(株)グリーンシティケーブルテレビ ●小学館 ●SAEKI ●瀬戸警察署 ●新世紀工芸館 ●seed工房
- サロンドSAY ●トライデントデザイン専門学校 ●ディサービスセンター中央東 ●ディサービスセンターてふてふ
- 大道芸人はなまる ●名古屋ファッション専門学校 ●名古屋市科学館 ●名古屋トヨペット瀬戸店 ●東山動物園
- HAL名古屋 ●ベッツアニマルクリニック瀬戸 ●藤井窯業原料(株) ●バルト工房 ●幡山中学校女子バスケット部
- 三菱重工名古屋航空宇宙システム製作所史料室 ●牧場みずの坂ウエストヒルズ ●マルチメディア伝承工芸館
- モンシェリー ●ミズノ建具 ●松村智子 ●リヴェルニー ●和菓子処三好屋老泉

※突然の電話や訪問等でご迷惑をおかけしたかと思いますが、ご親切にご対応いただきまして本当にありがとうございました。

上記の皆さんからお寄せいただいた声（一部）

- ・全く未知数でした。ぜんぜん想像もつかなくって、自分の中でもどうなっていくかわかりませんでした。最初に担当者から、キミチャレのお話を詳しくうかがった時に、できなくてもいいと言われました。もし、できなくて本人があきらめたら、それはそれでいいのでやらせてみてくださいとのことだったので、本当に気がついたら二十歳前後の専門学校の学生が授業で受けたりとか、入社5年目ぐらいの社員がやるような内容になっていました。友人たちからは、小学校5年生にそこまでやらせて大丈夫かと言われていましたが、最後まで達成した野乃ちゃんに私もすごく感動しました。
- ・最初に電話を受け取った時は、こういう企画だったとは知りませんでした。瀬戸市の教育委員会からレターをいただき、そんなのだったのと半分驚くのと同時に、こういうお子さんにチャレンジをさせる瀬戸市がすごいなと感じました。未来ちゃんは小学校6年生とは思えないくらい落ち着いていました。できたら、これからも長くお友達でいて、いろいろなことをお話したいと思います。
- ・秘密基地をつくりたいと聞いて、今でもそんな子がいるんだとちょっと嬉しくなりました。場所が坂のある竹藪なので、蚊が多くいろいろ大変だったと思います。材料集めから、組立てまで自分でやり遂げたと聞き、今回の貴重な体験が今後の人生にきっと役立つと願っています。



教育市民フォーラム第1部 ～成果発表会～

11月11日（日）、教育市民フォーラムで子どもたちのチャレンジの成果を発表しました。

●展示の部（ロビー）

全レポートをロビーに展示しました。(20～24P参照)

●成果発表の部

①チャレンジャー全員の紹介ドキュメント映像

制作：グリーンシティケーブルテレビ株式会社

②代表者10組の舞台発表

③チャレンジ協力者からのお話

④サポーターからのお話



①チャレンジャー全員の紹介ドキュメント映像

48組全員の活動について、取り組んだテーマ、実際の動きを写真や密着映像で紹介。中には初めて見知らぬ人に電話をしている様子、直接お願いしている様子なども記録されていて、見ている側にも子どもたちのハラハラ・ドキドキが臨場感たっぷりに伝わってきました。

（ナレーションより）

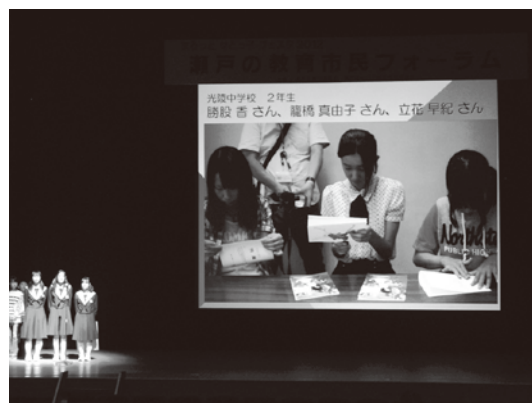
手を震わせながら知らない人に電話したこと、断られて泣きたくなくて、引き受けてもらって感激したこと、あこがれの職場にいて、声が出な

いほど緊張したこと、自分がお願いしたら、たくさんの人が協力してくれたこと。

うまくいっても、うまくいなくても、キミチャレの価値はチャレンジしたことそのものにあります。

「キミチャレ」は、子どもの心を育てる大切な階段です。

大人はみんな、自分の足で、一步一步登って行く子どもたちのサポーターなのです。



②代表者10組の舞台発表

すべてのチャレンジャー、48組を代表して10組の子どもたちが5分ずつ発表しました。緊張した面持ちでしたが、個性的で堂々とした発表に、来場した皆さんからは絶賛する感想が寄せられました（感想 30P）。一人ひとりご紹介します。

（ ）内はすべて発表時の学年（敬称略）



1. 池戸慎之介（陶原小6年）

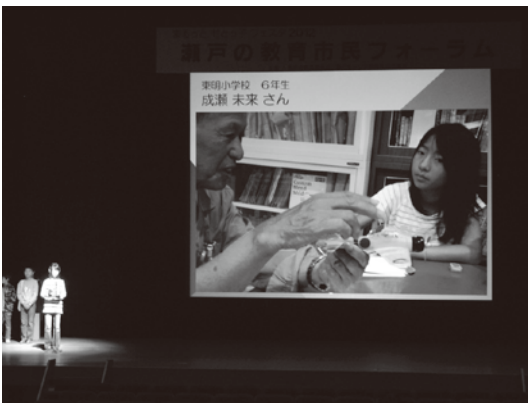
「パティシエになってお母さんの誕生日ケーキをつくりたい」

最初は1人で全部やると聞いてびっくりしたけど教えてくれるケーキやさんを自分で探して突撃訪問。二軒めのお店でOKしてもらった。お店の方は「電話だったら断ったかもしれないけど、直接一生懸命お願いされたから（笑）」と。なんども失敗しながら練習して、お母さんの誕生日当日、見事に成功。お母さんの泣き笑いが印象的でした。

2. 成瀬未来（東明小6年）

「飛行機がなぜ飛ぶのか、実験して探りたい」

インターネットで見つけた三菱重工名古屋航空宇宙システム製作所史料室に訪問、実験についても相談したのですが、自分で考えた実験方法ではだめだということもわかりました。そのあと、名古屋市科学館の装置を参考に実験装置を作り実験。何度も自分で考え試行錯誤し作り直した実験装置で、見事に大成功。探究心が光っていました。



3. 岩崎李音（深川小5年）

「大道芸人のパフォーマンスを見てディアボロを覚えたい」

あこがれの大道芸人に弟子入りするところまでの苦労、見事弟子入りに成功したあとは、手が痛くなるまで練習したこと、そして、せともの祭りでミニステージに立って技を大成功させた話をし

てくれました。そのあとはもちろんディアボロの実演。練習で一度も成功したことのない技まで成功させた見事な発表でした。



4. 鈴木野乃子（幡山西小5年）

「ぬいものが好き。お人形の洋服をうまくできるようにになりたい」

人形の洋服を作るつもりが、本格的な「自分ブランドのブランドシートを作る」という課題にグレードアップ。アトリエトレさんを師匠に夏休みのお大半をつぎ込んだチャレンジでした。何十枚も書いたデザイン画も何枚も没になり、それでもめげずに最後までやりぬき、本当にたいへんだった、と語る表情が大人っぽく輝いていました。

5. 上村洸太（道泉小4年）

「50m走を8秒で走れるようにになりたい」

「最初は暑くて、練習もつらくてやめたくなったけれど、やっているうちに楽しくなってきた。目標を強く思っていると、頑張る力が出てくると思う。目標を達成することも大事だけど、頑張ることのほうがもっと大事だと思った」そんな風にまっすぐ大きな声で発表してくれました。

6. 佐藤 凜（東山小5年）

「建築家になりたい」

自分の部屋のある家を将来作りたい、そんな気持ちでスタートさせたチャレンジでしたが、ドキドキしながらお願いした1軒目の建築事務所に断ら

れました。「お願いだから断らないで」と心の中で思いながら電話した2軒目の事務所の方がお話を聞かせてくれました。今自分が何をがんばればいいのか、そんなことまで気が付いたようです。



7. 山住優斗 (品野台小5年)

「でんじろう先生のような面白い実験をする人になりたい」

やりたい実験を教えてくれる人を見つけるのが本当にたいへんでした。何人もの人にお手紙を書いたり、直接お話をしたり苦勞の連続でした。でも、夏休みの終わりになって出会った愛工大の佐伯教授にいろんな実験を教えてもらうことができ、9月には学校で友達をあっと言わせる実験ができました。



8. 小掠浩樹 (西陵小6年)

「トヨタプリウスの製造過程を見たい」

最初にプリウスの工場見学は行っていない、と

断られてもめげずに次の行動に。カローラの工場見学、ディーラー訪問、極めつけはご近所を自転車で駆け回り500件近くの調査をしたことです。そしてプリウス所有者のおうちに一人で突撃訪問し、購入動機や使用感まで調べてきた、大人顔負けの発表でした。

9. 日高雪菜 (水無瀬中2年)

「動物園の飼育員になっていろんな動物と触れ合いたい」

飼育体験をしてみたくて東山動物園、名古屋港水族館と次々に断られ、最後に瀬戸市内にある牧場みずの坂ウエストヒルズで体験させてもらうまで相当試行錯誤を繰り返しました。めげそうになりながらあきらめずにがんばって、「目標に向かう道は一本じゃないということがわかりました。」と大事なことに気がついていました。



10. 勝俣 香、籠橋真由子、立花早紀 (光陵中2年)

「東日本大震災の被災地でボランティアをしたい」

中学生だけで参加できるツアーを自分たちで見つけ、夏の終わりに現地に出かけました。今、被災地はどんな状態なのか、出かけて行って自分たち中学生に何ができるのか、これから復興のために何が必要なのか、いろんなことを感じとってきた報告でした。3人が役割分担をしてわかりやすい発表を見せてくれていました。



教育市民フォーラム第2部 ～トークセッション～

第2部はゲストの吉田拓巳さんのトークセッションでした。

題して、「**16歳で社長になった僕のチャレンジ**」です。ゲストの吉田さんは17歳の現役高校生社長（平成24年11月現在）です。そして、自分の夢にむけて小学生の時から取り組んできた「キミチャレ」の先輩でもあります。

瀬戸の子どもたちには、自分の限界を自分で決めず、無限の可能性を信じて挑戦してほしい、そんな思い



から、若きチャレンジャーの吉田さんにお越しいただきました。

吉田さんはご自身が小学校4年生のときに親と参加したイベントでたまたま見た「VJ（ビジュアルジョッキー）」という職業に一瞬で魅せられ、夢中になったのだとか。そこから「自分でもやりたい」と思いたち「両親にプレゼンして」Mac（パソコン）を買ってもらって独学で

マスターし、小学生のうちに映像を作って発表する活動を始めました。それがきっかけとなり、福岡のアップルストアでイベントをさせてもらうようになって、そこから活動が広がり始め、16歳で会社を作ってしまったのだとか。

司会者から「あこがれの職業を見ても普通は、大きくなったらやりたい、って考えると思うのだけど、すぐにやろうと思ったのはなぜですか？」と聞かれた吉田さんは、「将来やりたいことは今でもできる」と断言されました。また、会場で聞いている子どもたちにも「やりたいことがあったら、行動しよう。」と語りかけてくれました。

（感想より）

- ・ 行動することの大切さがよくわかった。
- ・ 自分の考えを行動に移せる魅力的な方でした。「行動しないと何も生まれない」その通りですね。
- ・ こんな人になりたいとおもった。
- ・ 驚きの高校生。同じ年頃の子どもにも聞かせたいと思った。
- ・ 今まで自分が思い通りに生きてこれないと思っていたのは、自分が行動しなかったからだと痛感しました。
- ・ まず行動。将来やりたいことは今できる、とても印象的だった。
- ・ 元気や勇気をもらいました！



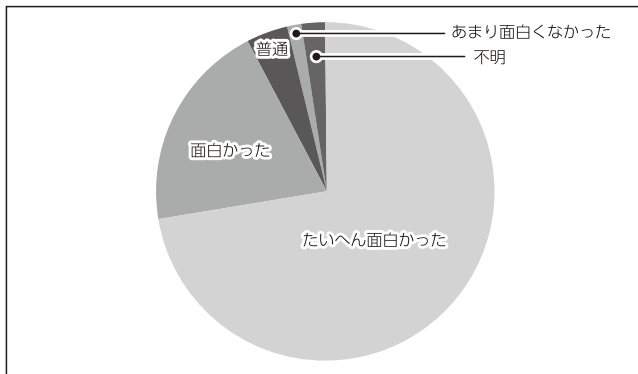


来場者の声 ～アンケートから～

教育市民フォーラムに来場いただいたみなさんからの声をご紹介します。

第1部 「キミチャレ2012」 映像上映&発表会について

①たいへん面白かった	72%
②面白かった	20%
③普通	3%
④あまり面白くなかった	2%
⑤面白くなかった	0%
⑥無回答	3%



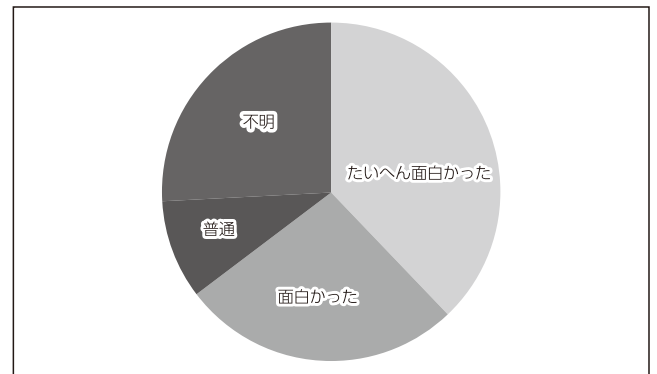
(感想より)

- ・子どもたちの生の声や対応された大人の方の声が聞けたことがよかった
- ・みんな一人ひとり夢に向かってチャレンジする姿に涙が出ました！
- ・発表した全員が自信を持っている様子であったことから、真剣さが伝わりました。
- ・子どもたちの成果が結果だけでなく、そのプロセスにおいても得られていることを、子ども自身が気づいていることが興味深かったです。
- ・自分もやってみたいと思った
- ・子どもが自分の言葉で語っていたことが面白かったです。他では見られない企画だと思います。
- ・子どもがさまざまな世界を知る機会を得て、思い切ってチャレンジできるようサポートしたい

- ・子どもの力は無限。ダメにしてしまうのは大人の社会かもしれない。手放して感動しました
- ・48組の挑戦に涙が出っ放しでした。結果だけでなく気づきを一人ひとりが発表しているのがとても心に残りました。
- ・ぜひ継続を
- ・やってみたいことをもっていること、頑張れることが素晴らしいし、わたしも我が子との接し方を考えるきっかけになりそう
- ・自分で動くことは面倒だけど挑戦することからすべてが生まれるのだと思いました。
- ・映像もよくできていてとても良かったです。
- ・子どものチャレンジに大人が勇気づけられた
- ・予想以上にすばらしかった
- ・他市町でも展開できるとよいですね。

第2部 「16歳で社長になった僕のチャレンジ」 吉田拓巳トークセッションについて

①たいへん面白かった	38%
②面白かった	26%
③普通	9%
④あまり面白くなかった	0%
⑤面白くなかった	0%



⑥無回答 25%



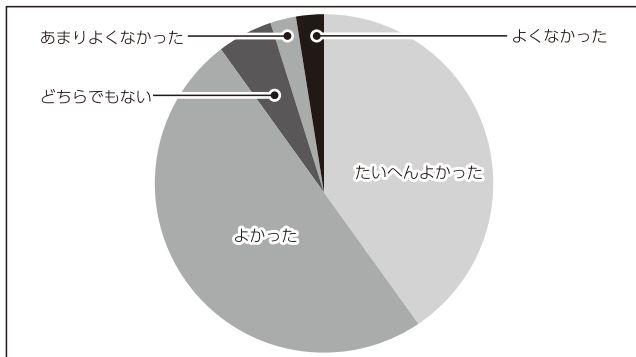
参加した保護者の声 ～事後アンケートより～

「キミチャレ」終了後に保護者の皆さんからいただいたアンケートからご紹介します。

(対象：56世帯 有効回答：42世帯)

1 お子さんが「キミチャレ」に取り組んだことについて

グラフをご覧ください。回答いただいた大半（90.4%）が参加したことを肯定的に見ています。



そう感じた理由としては

- ・普段なかなか自分から行動できないのが今回できたこと
- ・自分の夢というものを、キミチャレを通じて体験できたから
- ・将来なりたいこと、興味を持っていることがわかり、親子で話し合えた
- ・家族だけではあきらめさせてしまうこともサポートがあったおかげででき、あきらめない心や物事を調べるやりかたが知らず知らずに身についた
- ・子ども自身がやってよかったといっていた
- ・一つの目標に向けて何をするか理論的に考えられるようになった
- ・チャレンジすることの大切さ、失敗しても最後までやりきることなど大事な話をしていただいたこと（親がいつでも聞かないので）
- ・親を頼らず一人で考え行動できた（サポーターのおかげです）

2 子どもの変化について

「子どもが前向きに自分で動けるようになった」という感想をもった保護者の方がほとんどでした。抜粋してご紹介します。

- ・度胸がついたこと、どんなことでも何とかできるという考え方が身についたよう。
- ・ゴールが人それぞれ違い、色々な手段や方法、考え方がみんな違っていいと気が付いたこと
- ・発表会で小学生の子たちの発表を聞いて、中学生の自分も見習いたいと気が付いたこと
- ・（今回体験した職業について）将来必ずなりたいという気持ちが強くなったようです。
- ・いつも親を頼っているが、自分で考え、行動をして取り組めたこと
- ・初めは興味本位で申し込みしただろうと思っていましたが、サポーターの方たちにお世話になっていくにつれ、今回のチャレンジの重要性、注目度を理解し責任感が生まれてきたように思います。最終的に目標を達成でき、自信が生まれたことを今後の学校生活にも活かせると思います。
- ・社会で起きていることに興味を持つようになりました。また、今まではやりたいことが頭のなかでグルグルめぐっている感じだったのが、声に出して行動できるようになりました。
- ・身近な疑問の解消に精一杯取り組み、粘り強く答えが出るまで、納得いくまで続ける根性と責任感、そういったものが備わったようです。
- ・チャレンジが終わった今もいろんなことに疑問を持ち、自分で調べるようになりました。また友達を大切に、積極的にいろんなことに取り組むなど、心の持ち方がずいぶん変わりました。
- ・何に対しても「どうせやっても」「どうせうまくいかない」という考え方の子だったのに、

「やってよかった」という言葉が聞けてよかったです。動いてみて描いている夢と現実のギャップに気が付いて高校進学についても広い目で見て決めようとしています。

- ・いつもはおっとりしていて、何かを始めるのは心配そうに親の意見を求めてくる子ですが、今回の取り組みで短期間にとっても熱心に動き、自分の力で歩もうとしていました。
- ・知らない方に連絡をとるのは恥ずかしそうでしたが、少し自信につながったようです。
- ・困ったときに自分で考え、行動することができるようになりました。
- ・最初は苦しかったチャレンジがやっていくにつれて楽しくなり、最後は目標を達成できなくても結果を受け入れ、頑張ったという自信につながったようです。

3 保護者として気が付いたこと

とても多かったご意見は「自分が口を出しすぎていたことに気が付いた」「我が子は知らないうちに成長していた」というものでした。抜粋してご紹介します。

- ・何も手を出せないのは親にとってもチャレンジでした。案外自分で考えてできるのですね。
- ・いつも先に先にと手を貸してしまうが、今回はサポーターがいたので少し距離を置いてみるのができ、子どもが自分なりに考えて行動するところが見られたのがよかった。
- ・自分たちの子どもということで勝手に限界を決めていたような気がする。今回子どもの無限の可能性に気づかされて自分たちもまだまだ成長しなければならないと思った
- ・わたしがいろいろお膳立てしなくても自分で考えてできるんだと思って、子どもの行動を信頼できるようになった。結果、とても気持ちが楽になり、子どもをワクワクして見守れるようになった。
- ・親が我慢をするという点で本当に勉強になりました。子どもを信頼し先回りしないということは大切だと再認識できました。
- ・わたしが何かきっかけを与え、最初の一步を手

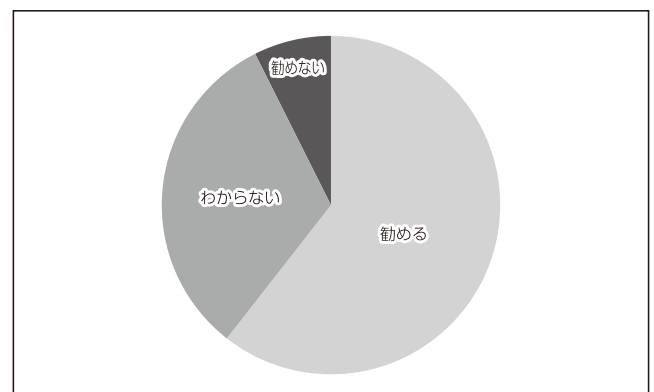
助けしないと何もできないと思っていたのですが、それはわたしの勘違いだったようです。

- ・子どもが自分から挑戦したいことに挑戦してこそ真の成長なのだと気が付いた
- ・いつもはついつい口をだしていたが、今回は親が口を出してはいけないといわれて、ぐっとこらえてみていた。子どもってすごい、と思うことばかりで、成長しているんだと改めて思った。
- ・電話の掛け方ひとつとっても教えたことがないのにできていて驚いた。
- ・キミチャレはわたしにとって見守る忍耐の必要な「親チャレ」でした。つい口を出してしまい子どもとケンカになってしまうことも。見守ることの難しさを痛感しました。子どもの可能性を信じて見守り、助けを必要としたら手を差し伸べる、そんな親になれるよう「親チャレ」を続けたいと思います。

逆に「キミチャレ」へのご不満や改善案などは以下の2点にほぼ集約されていました。

- ・応募の仕方について（すべて自分でやるということへの説明不足）
 - ・サポーターの支援の内容（人によってフォローの度合いに差があった）
- この点は、今後の課題（33P）として検討する必要があります。

最後に、来年「キミチャレ」の参加をほかの人に勧めますか？という質問に、6割の方が勧めると回答しています。改善しながらも、ぜひ継続して行いたいと思います。





参加した子どもたちの声

- 目標が達成できなくてくやしかったけど、自分なりに頑張った。目標を達成することも大事だけど、頑張ることの方が大事だと思った。（小学4年生）



- まず自分でやろう。それから調べる。そして忘れないようにする。

だから来年も
キミチャレにでたいと思う。（小学4年生）

- 普段しないようなことができたし、まさか自分一人のためにこんなに周りの方が協力してくれるなんて思ってもいなかった。（小学4年生）

- 最初は「めんどくさいなあ〜」と思っていたけど、色々な事が進むにつれてドキドキ・ワクワクが高まってきた。（小学5年生）

- 初めて知らない人に電話をかけてお願いしたり、質問したりして、とてもドキドキしたけど、とてもいい経験になった。（小学5年生）



- 自分で実験しようとする
と、なかなかうまくいかず、何度も失敗してやりた

くないと思ったけど、最後まであきらめずに自分のできるところまでやった。すっきりした気持ちで終われてよかった。（小学6年生）

- 苦勞されたお話も楽しそうに話してくれたTさんが、CAとしてではなく一人の女性としてとても懂れる存在で、こんな女性になりたいと思った。（中学1年生）

- 今回キミチャレで体験できたことはとても良いことだと思う。何事も「やってみる」「あきらめない」ことが大事だと思った。（中学2年生）



- 今回のことで、これから色々なことにチャレンジしていくための一歩が踏み出せたような気がする。

今年の夏に頑張った経験を自信にかえ、この先困難な壁が現れたときにも、前向きに乗り越えていきたいと思う。（中学2年生）

- とにかく毎日が充実していて、とてもいい体験ができた。時には、朝起きるのがつらくて休みたと思うってしまう時が何度かあったけど、こうして乗り越えられたのも、お店の方々がとても優しくしてくださったからだと心からそう思っている。（中学3年生）





「キミチャレ2012」 Q & A

**「キミチャレ」についてよくいただいていた疑問
などを紹介します。**

Q：子どもたちが動いたことで、企業からのクレームはなかったのか

A：「子どもから電話があったが本当に教育委員会の事業なのか」という問い合わせが2件、ほかに、びっくりしたというお声はいただきましたが大きなクレームは幸いありませんでした。多くの企業様が戸惑いながらも子どもたちを受け入れてくれました（瀬戸市外の企業様も同様です）。もちろん、企業様から「教育委員会からの依頼状がほしい」という声があれば、対応していましたし、子どもたちには、教育委員会まで来てスタッフの隣で電話してもいいよ、と伝えていました。

Q：最初の根回しなどは教育委員会からするべきではないか（小学生には無理なのでは）

A：お膳だてのない中で必死に動くことが大きな体験となります。また、後日伺ったところ、企業様にとっては「事前に教育委員会から聞いたかった」という声があったのも事実ですが、逆に「事前をお願いしていたらどうしましたか」と伺ったところ「子どもに直接頼まれたから引き受けたけれど、事前に教育委員会から依頼されたら、多忙を理由に断っていたかもしれない」ということでした。また、失敗したり断られたりということが、子どもたちにとってマイナスであるとはとらえていません。むしろうまくいかなかった経験も貴重な学びの機会となるよう、しっかりサポートしていくことが大切だと考えています。

Q：費用のかかるチャレンジをする子がいた場合、親の都合でやれなかったらかわいそうだから、多少の費用補助が必要なのでは。

A：子どもたちがやりたい、と思ったことがすべてかなうことが重要ではありません。もし、費用面や保護者の方針でそのチャレンジが難しいとなった場合も、どうしたら可能なのか、どの範囲ならできるのかを考えさせ、親子で話し合うことが重要だと考えています。社会に出たらすべて平等ではなく、やりたいことを実現するために工夫する力がとても大切だからです。

Q：目標達成できなかった子はどうなるのか

A：そもそも「これが正解のゴール」というものではなく、その子なりに今までやったことのないことに、一つでも取り組めたらそれが「キミチャレ」です。大切なことは自分で考え自分で取り組もうと動くことです。実際に思い通りにいかなかった子どもたちは、その意味をよく考えたレポートを作成してくれました。

Q：今後の課題は？

A：2つあります。一つ目は募集の仕方です。初年度ということもあって「子どもが自分ですべてやる」ということが伝わりきっておらず、親として困惑した、子どもも軽い気持ちで応募してしまった、という声がありました。事前により脅してもいけませんが、ある程度覚悟をもって応募してもらうような告知をしなくてはならないと考えます。二つ目はサポーターのありかたです。サポーターによって「支え方」の度合いにずいぶん差があったという声が出ていました。子どもたちが考え込んで動けなくなっている場合を想定して、早めに声をかける、まったく何もしない子を後押しする、行き詰った場合にヒントを与える、という一つ一つで差が出てしまいました。サポーターと事務局がまめな情報共有をする仕組みが必要だと思います。



「夢と希望への道しるべ キミチャレ2012」

今を生きる私たちにとって、「夢や希望をもち、その実現に向けて限らない努力をすること」が、どれほど素晴らしいことであるか。「失敗や挫折があっても簡単にくじけたり逃げたりしない心の強さを持つこと」がどれほど重要なことであるか。

その問いかけに、「キミチャレ2012」は、見事に答えてくれました。

自ら設定した課題に、自らの体験を通して、果敢に挑戦することで、「自分」という存在をきちんと受け止めた瞬間を、挑んでくれたすべての子どもたちが体感することができたのではないかと思います。

決して、良い結果を今回のチャレンジの「成功」とは捉えていません。失敗や挫折を味わって、今まで経験したことのない一步を踏み出したという実体験こそが、「成功」と評されるにふさわしいものだと思います。

さらに、今回の成果は、子どもたちだけのものではありません。保護者のみなさんにとってじっと見守ることがいかに大変で苦しいことであったかがひしひしと伝わってきます。しかし、取り組みの過程で、「見守る」「親としてやるべきことは何か」という、本来の役目を掴んだ保護者のみなさんの思いの発見もまた、大きな「成功」であったと強く感じました。

私たちのまわりには、子どもたちの無限の可能性をのばすチャンスがたくさん有りながら、生かす術を十分備えていないのではないかと思います。「キミチャレ」への挑戦は、チャンスの存在を目に見えるものにしてくれました。

大切な宝物を発見したような感動を覚えた方々は、未来への「生きる力エネルギー」を子どもたちの一步から手に入れることができました。

平成24年11月11日 まるっとせとっ子フェスタ「教育市民フォーラム」において、「キミチャレ2013」の実施が、宣告されました。

同様の取り組みを期待する声も多数ありますが、平成25年の夏を、新たな挑戦の夏にする智慧を授かった皆さんへは、さらに、活動範囲を広げて、もう一步先の子どもたちの「自分探しの旅」を後押しできたらと願うものです。

「キミチャレ2012」に関わっていただいた、キャリア教育関係者の皆様を始め、たくさんの支援者のみなさんに深く感謝を申し上げ、挨拶とさせていただきます。

誠にありがとうございました。

瀬戸市教育委員会 教育長 深 見 和 博

中日新聞

夏休み 夢がなえよう

瀬戸

「ミヤノの話をたい」「助産師の仕事を経験したい」。瀬戸市教会のサボートでは、小中学生が夢に挑戦する新たな取り組み「キミミヤレ2012」が始まった。夏休みの間に好きなことに思い切り挑戦し、考えの力や生き抜く力を付け、たくましく育ってもらいたい。

才起隨戲

「キミチャレ」2012「始まる」



サポーターとともに作戦を考える「キミチヤレ」の挑戦者ら＝瀬戸市文化センターで

内の小四・中三の五
組五十九人が挑む。二
百人が一人か数人があつた
「有名な会合」をい
いたつた「要望」
は除かれた。

基本的には、誰に話
を聞き、どうやって教
えてもらうまで、す
べて自分でやる。サ
ポーター役のは、子
どもたちが迷ったとき
にアドバイザーした
り、アドバイスを受け
たりするとき相手方
に頼るという。

市教委が応援
小中学生50組

自分です

二十三日は、市文
化センターで二回
目の会合があり、実
際のことなのか、サ
ポーターのアドバイ
スを受けた。

「小児科医になりた
い」といふ夢を抱け
る水野小四の日比由
奈さん（一位かない
う）は射撃打ってき
て近所の医者さんに
おかれたといひ。

「電話で約束を取っ
て、先生にフタヒュ
ーをして、医師の仕事
を体験したいので、聊

キミチャレの例

- ### ●「チャレ」の例
- ・50%を8秒で走れるようになりたい(小4)
 - ・跳び箱で10段を跳べるようになりたい(小5)
 - ・アナウンサーの仕事を経験したい(小5)
 - ・警察官になり交通ルールを注意したい(同)
 - ・和菓子を自分一人で作ってみたい(同)
 - ・パティシエになってお母さんの誕生日ケーキを作りたい(小6)
 - ・飛行機がなぜ飛ぶのか実験したい(同)
 - ・太陽光発電で扇風機を作りたい(中2)
 - ・東日本大震災被災地でボランティア(同)

診察で心臓の音を聞か
せてほしい。なまごお
願ひしてみるつもり
だ。

キャリアカワンセラ
ーでもある市教委の柴
田朋子さんは「目標に
なかり着けない子もい
らうで発表会

① パティシエ

ケキが好きだといつ
 慎之助君の事は、バディ
 シエ。夏休みを前に
 「お母さん」に内緒で誕生
 日ケキを作つてくれた
 い」といつて、好きな目隠
 を定める。染布は異常な
 障子がある師の美濃さん
 (ミを思いいつ、一お姉
 ちゃんにはケキキを作れな
 いや、お姉ちゃんに分
 らない、お母さんに感謝
 もお母さんにも感謝した
 んといふのも、喜ば
 せつか、作るなら、
 口に教わりたい。市

(小6年)

洋菓子店に弟子入り 池戸慎之助君(陶原小6年)
 市内の... 謝した... の分... ねな... おお... 機... んの...

が、軒目
の店名を
指図を請い
て、家へ歸れて
酒た。
母劉美さん
一人材料を
午前中から長
年かけてに洗
濯を主作りに
罪の配分難し
く、想像通
りらしいチョコ
レート形のケ
ーキを完成さ
せて、家族が
集まる中で
夜、バザンと歌えたら
なるかな。ケーキは
なかなかに贈る
美さんには、愛後
美さん中は、
瀬川市で



姉の分まで母に感謝

「ほくの愛情が」もつて
たからかな。大成功」と
慎之助君。洋菓子で人
幸せにする、そんなバ
イシエの喜びを身を
て知ったようだ。

灣市の児童、生徒が夏休みを利用して、夢や抱いたことに挑戦したりした。チャレ２０１２の結果がまとまった。自分人ではアポロトを取った。取付の行動力を見せた。負けの行動力を見せた。またも「挑戦」する。この大切な文化を、十一月に市文化センター開かれる教育市民フォーラムで発表されるのを前に挑戦例を紹介する。（水越直成）



② 警察官

一日瀬戸署員 大沢唯菜さん(幡山東小5年)



電車の乗降客に積極的に啓発品を配り、交通安全を呼び掛ける大沢唯菜さん(左)＝瀬戸市市名鉄尾張瀬戸駅前で

直談判で夢の制服姿

「きっかけは、お姉ちゃんの不審な男に追い掛けられたこと。それから毎日のように警察がパトロールしてくれた。パトカーに乗る警察官は安心をくれるだけでなく、いつしか唯菜さんの「かっこいい存在」に。」

七月、思い切って瀬戸署へ相談に出掛けた。「一緒にパトロールさせてください」。返ってきたのは「いつ事件事故が起きるか分からない」という言葉。諦めかけたが、熱意が通じたのか後日「一緒に交通安全を呼び掛けようか」と連絡をもらった。

あーがれの制服を着た。同行したベテラン警察女性警察官「にまで任命」といって、直接お願いにきた子どもは初めて見る貴重な瞬間にも答えてもらい、乗降客に「交通安全が見られたもの、徐々少し通い存在だった警察官が、身近に感じようように過していただき」ととても積極的だった。



③ アナウンサー

CATVで体験 吉野友海さん(西陵小5年)



テレビカメラに囲まれたスタジオでアナウンサーを体験する吉野友海さん＝名古屋市守山区のグリーンシティケーブルテレビで

本物のカメラに緊張

「前日からドキドキが止まらなかった」という友海さんは「緊張しちり、泣いてしまったこと」なかつた収録風景が目の前にあった。スタジオに入っただけで胸が高鳴る。女性アナウンサーに実際に「やうもって勉強しなきゃ」。言葉とは裏腹に背筋を伸ばし、輝いた目でテレビカメラを見つめた。

手と声を震わせながら電話で地元ケーブルテレビに頼み込み、快くアナウンサー体験を受け入れてもらい、読み方まで教えてもらった。

跳び箱は跳べる。しかも、学校にあるて一番高い八段（一辺）を。それでも「クラスでは男子を言て四、五人が跳べたけど、その中でも一番にならなかつた」。小学生の跳び箱は八段までしか作れないが、晏桑さんでは「が限界だなんて思わぬ」。

小学生用十段に相手する中学生用八段（二一十）を夏休みの目標に定めた。知人の市職員鈴木博也さん（名）に指導役を頼み、計六日間挑

1日2時間 特訓6日 山口晏奈さん(陶原小4年)



目標の跳び箱10段に相当する中学生用8段を跳び越える山口晏奈さん＝瀬戸市上本町の市体育館で

恐怖心を跳び越えた

戦。七段まではクリアであるのが怖くて、ダンゴも苦戦した。たまたまト一本の声がかった時、「私はきつと跳ぎて、頭張らない」と云うた。勢いよく手さんが話掛ける。「全箱の上に乗っては下りてくたせ。勢いよく手部惜しい感。恐怖心で勢いがなくなってる。思ふを赤く腫らしながら付き、高く宙を舞う要い切つていけば絶対跳べるよ。」と一言「話聞、聞開が」さん一挑戦よりか頭で分かつて、心がだ。最後の練習日。この日段を跳び越えていた。落ちてついでにいかない。

⑤ 大道芸人

おわん、つを盛てさむ
せにような茶を、スチ
ィクの間に挟み込で
用器に盛り、時は数分
上へ放りつけた。茶が
染みてヤツチ、これが李
音君の得意とする道楽
「ティアポロ」だ。
大道芸人は生るるさん
（？）名古庫市街地区
への出役は二年間、名
古屋・栄でティアポロを
披露し、通行人驚き交
笑いを巻き起こすを見
ながら、「おちやんのディ
アポロで練習しては十數
回通った」と木村チャレ

(深川小5年)

岩崎李音君

夢に
チャレンジ

「トヨタ・プリウスを
造過程を見てみた」と
決めた浩樹君。理由は
「最近ハイブリッドカー
を多く見るようになって
興味がわいて、トヨタ
は車種が多くてもと
好まれているから」。
市内の販売店にお願
いしたところ、プリ
ウスの製造過程は一般公開
されておらず「見学でき
ない」という回答。本社に
掛け合い、トヨタは顔
みんなものと同じ。顔

調査 小掠浩樹君 (西陵小6年)

近所564軒回り調査 小掠浩樹君(西陵小6年)



性能力から見る営業担当者のプリウス販売店の営業担当者から性能力を聞く小塚浩樹君・瀬戸市見付町で

「うーん、いなかと興味を空けた活劇篇「ちよっと」開きにも関わらず「ちよっと」なご、夢のきつかつみたかんたんだよ」

「この連載は、水越直哉が担当しました」

活動を紹介した「ミミヤチヤレ2012」の発表会と映画上映は、瀬戸市文化センターで開催中の「まるごとどろろ子フェスタ」で二十一日午後一時

オーナーから生の声

夢に
秘伝

プロの練習会で腕磨く 岩崎李音君(深川小5年)



祭りでも披露し大成功

は、地元の「せむも」
でデアポロシヨ
を成立せしめて、
園でシヨを終へる
まで、ひと月の中
間までおられた。
「大道」の舞臺に
来人の観客に逢て
つていいですか」
略かしくなると
驚かして、
「大道」
「三が」つむな
逆に時間が余つて困
ちが、一番強いかな
屋戸内の体育館へ「キヤ
大成功



資料集



「キミチャレ2012」～キミも今日からチャレンジャー～

チャレンジャー大募集！

◆この夏、やりたいことに挑戦できる企画がはじまるよ！

夏休みをつかって、自分のやりたいことをトコトンやってみない？「キミチャレ2012」は、チャレンジしたい小中学生を応援します。「パティシエになりたいから、大好きなケーキ屋さんにおしえてもらいたいな」「なわとびのすごい技を覚えたい」「太陽光発電でうごくモノを作りたい」「世界の貧しい子どものためになにかしてみたいんだけど」「日食のひみつを知りたい」...などなど、チャレンジしたいことをアドバイザーの大人がサポートするよ。

「やってみよう！」と思った人は、テーマを次の中から選んで、応募しよう！

◆キミチャレ2012 挑戦テーマ◆

- ①あこがれの仕事 ②スポーツ ③ものづくり
- ④ボランティア ⑤ふしぎ探究

1 応募方法

エントリーシートに必要事項を記入して、担任の先生に出そう！
友だちと一緒にでもOK！

2 応募条件

小学校4年生から中学校3年生までの児童生徒

3 エントリー締切日

6月28日(木)

4 特典

参加賞(応募者全員)

ほかにも、「アイデア賞(仮)」などの楽しい賞を準備しています。

★活動の様子はケーブルテレビが撮影します。

5 発表会 ※50組全員参加

11月11日(日) 13時～ 瀬戸市文化センター 文化ホール
すてきなゲストを迎えて、みんなのチャレンジを記録した映像を上映し、
選考会で選ばれたチャレンジャーには舞台上でチャレンジしたことを発表し
てもらいます。

<注意>
応募者多数の場合は、書類審査により50組程度を選びます。
参加賞は全員にお渡しします。

おうちの方へ

「キミチャレ2012」～キミも今日からチャレンジャー～ について

「キミチャレ2012」は、子どもたちの熱い夏を応援します。
日ごろ、「こんなことがやってみたい!」と思いがながらも、なかなかまとまった
時間がなかったり、サポートしてくれる大人がいなかったりして、なんとなく
やってみよう!ということがあってもそのままにしている子どもたちがたくさんいるの
ではないでしょうか。

- ・あこがれの、あの仕事をやる人!に直接話をきいてみたい
- ・宇宙の不思議について、もっと深く知りたい
- ・自分の力で貧しい世界の子どものためになにかしてみたい
- ・スポーツの苦手を克服したい
- ・楽しいゲームを作ってみよう! などなど発想は無限でしょう。

普段、学校ではなかなか取り組みにくいそんな夢を、この夏、教育委員会と
キャリア教育推進協議会が応援します。

エントリーシートに自分の挑戦してみたい夢を記入いただき、応募してくれ
たお子さんには応援スタッフやキャリア教育市民講師などがついてアドバイ
スを行います。

結果だけでなく、がんばっている過程、失敗を受け止めたりくやしかったり
するプロセスを大切にしたいと思っています。そして、11月11日(日)のまるっと
せとっ子フェスタ最終日、瀬戸の教育市民フォーラムの会場で10組のお子
さんの発表とともに記録映像の上映もいたします。ぜひ、お子さんの成長を見
届けてください。

瀬戸市が地域ぐるみで応援する子どもたちの夏。ぜひともご参加ください。

瀬戸市教育委員会 教育長 深見 和博

【今後のスケジュール】

- 6月28日(木) エントリーシート締切(学校へ提出)
- 7月 初旬 書類審査(応募者多数の場合のみ。50組程度を選考)
- 7月 9日(月) 詳細な説明資料などの発送(審査結果)
- 7月22日(日) 午後4時～5時半 参加者説明会とアドバイザーの紹介など パルティセと
- 8月後半(予定) 中間報告会 ※詳細は説明会でお知らせします。
- 9月28日(金) 活動レポート提出
- 10月 中旬 舞台発表者 選考通知
- 11月11日(日) 「キミチャレ2012」舞台発表&教育フォーラム講演会

問合せ先:瀬戸市教育委員会教育総務課 88-2756



キミチャレ2012 エントリーシート



(ふりがな) 名 前	()	学校名	学校
電 話	(0561) -	学 年	年
住 所	〒		
挑戦する テーマ *Oで囲む	① あこがれの仕事 ② スポーツ ③ ものづくり ④ ボランティア ⑤ ふしぎを探究		
こんなこ とに挑戦 したい	(この夏休みにがんばってやってみよう!と書いてください。アドバイザーといっしょに、面白 い挑戦にいきましょう。)		

◎記入いただいた個人情報は厳密に管理し「キミチャレ2012」事業実施のためだけに使用いたします。

問合せ先: 教育総務課 88-2756

しめきりは⇒6月28日(木) 担任の先生に提出してください!

キミチャレ2012のすすめかた ルールブック

1. まず、自分で考える
2. サポーターに相談する
でも、サポーターは答えを教えてくれる人ではありません
いっしょに考えたり、ヒントをくれたりします
3. 自分でできることは自分でやる
・ 行き先をしらべる
・ やりかたをしらべる
・ 電話をかける
・ 必要なものを準備する などなど
4. やったことを記録する
・ どうやって調べたのか
・ どんなお話をきいたのか
・ お金がかかったか
・ 報告レポートをつくる などなど
5. やってはいけないこと
・ 行き先をいわないで、一人ででかけてはいけない
・ 危ない場所にいかない
・ 夜おそく一人で出歩かない
・ 親にだまってお金をつかわない
6. スケジュール
・ 8月20日 中間報告会 午後2時～ 瀬戸蔵多目的ホール
・ 8月31日 活動終了
・ 9月28日 報告レポートを学校に提出する
・ 10月半ば 発表する代表者決定
・ 11月11日 教育市民フォーラムに参加する

相談窓口

教育総務課 柴田・鈴木 電話 88-2756
瀬戸市キャリア教育推進協議会 山田・谷口 電話 82-3123（商工会議所内）

